

PORT SAPIE

ぽるていぴえ

函館大学広報誌Vol.4●発行／函館大学広報誌編集事務局

1996.DEC
Vol.4



灯台の聖母 トラピスト修道院(上磯町)

特集

◆理事長VS学長対談

「函館大学の未来ビジョン」

座談会

南半球の真夏をビッグに楽しみました。

私たちのオーストラリア研修

The入試

函館大学の入学試験・チャネル別合格談インタビュー

函館大学



函館大学校歌

親潮速き

作詩 土田秀雄
作曲 館野信平

親潮速き海峡を とどろと寄する荒波も
乗り越え行かんひたすらに 北極星を仰ぎつつ
真理の海に棹させば 黙示ひらけて人の世の
まことの平和あらわれん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校
三 徳並みも霞む大平原 鷗群れ飛ぶ北の海
尽きせぬ富を拓きつつ 担う文化の豊けさよ
恵み頒ちてもろ人と 手に手をとらば人の世の
樂園ここに開けなん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校
三 狭霧晴れゆく蝦夷松の 林のかなた郭公鳴く
思案の朝を踏みゆけば 心開くる思いあり
友とし学ぶ幸ありて 誠に結ぶ学園の
道をひとすじに進まん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

平成8年12月から平成9年3月までの主な日程

平成8年

12月11日 冬季休業開始
第14回海外研修旅行団(イギリス・イタリア)出発

平成9年

1月16日 冬季休業終了
1月17日 後期授業再開
1月23日～23日 推薦入学試験(スポーツ・カテゴリー)第2期
1月31日 卒業論文提出締切
2月1日 第1期入学試験
2月4日 後期授業終了
2月5日～19日 後期末試験
2月26日 就職懇談会(大阪会場)
2月27日 就職懇談会(東京会場)
3月10日 春季休業開始
3月16日 第29回卒業式
3月17日 臨時休業
3月19日 第2期入学試験
3月31日 春季休業終了

函館大学
広報誌編集事務局

〒042 函館市高丘町51番1号
TEL(0138)57-1181 FAX(0138)59-4575



C O N T E N T S

◆特集 座談会「函館大学の未来ビジョン」	2
新姉妹校紹介	5
座談会「私たちのオーストラリア研修」	6
入試概況	8
チャンネル別合格インタビュー	9
北から。南から。出身校紹介	10
教員インタビュー「研究室から」	11
教職員プロフィール	12
思い出往来・ズームインキャンパス	14
平成8年度就職戦線	15
ゼミナール紹介	16
インターゼミ報告・ビジネスマナーABC	17
函大ing	18
思考する。発言する。行動する函館大学	
協学会だより	19
エッセイ「七夕とハロウィーン」	20
The Money〈お金の貯め方〉	21
健康相談室〈目の健康〉	
函館食べ歩き	
函館企業訪問〈㈱テーオー小笠原〉	22
私の函館散歩	23
クラブ紹介	24
読書テーブル	25
公開講座便り	26
野又学園プロフィール	27
函館短期大学付設調理師専門学校	
同窓会から	28
投稿コーナー百葉箱	29

「ぽるとさぴえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサピエンティス（知恵や英知を意味します）を合成した造語です。みなさまのご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。

〈第3号のお詫び訂正〉 函館大学広報誌編集事務局

このことについて、大変ご迷惑をおかけしましたことを、お詫びしますとともに、ご訂正下さいますようお願いいたします。

1. (誤) 表紙「春の五稜郭公園」→ (正) 「春の五稜郭公園」
2. (誤) P3.4段目左2行目、P28.1段目14行目、3段目右14行目
「三上武氏」→ (正) 「見上武氏」
3. (誤) P4.商工会議所「松本博之」→ (正) 「松本博之」
4. (誤) P18.池上千春 (三年) → (正) 池上千春 (四年)
5. (誤) P21.波田野麻起子→ (正) 波田野麻紀子
6. (誤) P25.函大ing「去る平成七年十二月二十日」→ (正) 「去る平成七年十二月十日」

◆理事長VS学長対談

「函館大学の未来ビジョン」

学校法人野又学園

●理事長 野又 肇

函館大学

●学 長 河村 博旨

函館大学は、1965(昭和40)年に創立され、本年30周年を迎えました。この節目にあたり、本学では、来たるべき時代の高等教育のあり方を多様な次元で探究し、さまざまな実践していく試みを重ねていきたいと考えています。函館大学の未来ビジョンを、理事長と学長が語り合いました。



理事長 野又 肇

学部の充実から大学院構想へ
理事長／近年、大学改革が大きく取りざたされていますが、本学でも改革に積極的に取り組んでいくと考えています。教授会でも議論はしておりますが、それを具体的に推し進めていくということが、さしあたっての課題でしょう。その第一に、カリキュラムの検討。国際化と情報化がさらに進むこの時代の時代に対応していくために、どのようなカリキュラムで学生をどう教育していくか、的をしばって取り組んでいくことが大事。そしてこれに伴って、講義内容をきちんと的確に示して、それを実行に移すこと。そのうえで、個性を伸ばしていくというの、私たちが考える教育の基本ですからね。そして第二に、社会が期待している人材の育成。ただ単に知識があるだ

けがなく、自らが問題を見つけたら、それを自分なりにどう解決していくか。さらには、まわりをまとめて引っ張っていく人材を社会は求めています。そのような人材をどう育てるかというのが、我々の大きな課題となっています。そして第三に、先生方がいかに教育と研究に取り組むか。本校では、非常に優秀な人材が増えており、若し先生方が研究にも意欲的に取り組んで、それが教育に反映されていくことが理想です。すぐに結果が出るか出ないかはこれからですが、このような目標をもつことこそ大事なのではないかと思っています。



学長 河村 博旨



能力を有する実務家を養成する大学院(修士)を先ず創設する。そして、実務界の専門能力を有するエリートの養成からはじめ。これは実現性が高い。実現性の高いところからまず実践することでしょう。理事長／そして、大学も競争社会ですからね。教職員一人ひとりが競争社会の中でどう自分を高めていくか、やはりそのあたりが必要でしょう。学長／たしかに、自分独自のものを全国や世界にアピールするという意識がないといけませんね。困難なことですが、挑戦は常に継続する。常に書き、次々に発表するという個人的習慣と、組織としての伝統が出来上がることが大切だと思います。その発表には出版助成などをドンドン大学が行うことが大切ですね。その傾向が現れ始めていますから、論文集はもちろん、テキストも参考書も解説書も独自のものを開発する挑戦を応援するという精神で、失敗を恐れずに、教養書の出版も、と。その方向に動き始めている函館大学ですから。一段と教育も充実するはず。必ず。

教員のさらなる実力アップをめざして

理事長／学長の意向で、企業の第一線で活躍している人材を多数講師に迎えています。ある意味では、実社会で有効な実学を教えるという点がおかしい。この考えから、実際のビジネスキャリアを重視した人選が行われている点が、函館大学ならではの特色になっています。だから講義に非常に説得力があるわけです。企業活動の実情が具体的な事例で聞けるわけですから、生きた教育ができていくのではないのでしょうか。学生たちには、そのことを認識し、興味を持ち、これらの素晴らしい先生たちから積極的に何かを学びとろうと、ひたむきな努力をしてほしいと思います。

学長／古い昔の教授のように、何年も同じ

ノートを見ながら、とつとつと講義するということがほとんどない。これでは学生の方も卒業さえできればいいやとなるのも当然。非常に勉強した人であれば、基礎から各論まで自由自在に講義ができるはずなんです。教育への情熱が伝わらなければ、退屈な講義はまったく意味がない。新鮮で情熱的で、しかも感動を伴う講義、そして生涯記憶に残る。生涯後に役に立つ内容の講義となれば、理想的ですね。しかし、なかなか難しいことです。教える側も常に自己開発すること、その意欲と情熱、これがいちばん大切ですね。

理事長／そうですね。これまでの日本の大学のあり方に疑問を感じていた点を、どうして正していく必要がありますね。例えば教員たちが、去年一年間の自分の講義の結果をまとめるだけでも意味がありますし、そこで検証することもできる。あまり身構える必要もないし、むしろ謙虚に去年こう



高等教育は量から質へ

理事長／これからマルチメディアの時代になっていきますよね。そうした場合に、大学の教育が従来の講義形態を継続していいのか、あるいはドラスティックに変革していく必要があるのかという大きな曲がり角にきていると思うのです。いままでのような講義形式というのは、ビデオでもいいし、衛星放送でもいい。そのようなことはすべて機械にまかせて、これから人間がやらなければならないことは、もっと討論しながら、教育をより深めていくことではないでしょうか。例えば基本的な知識というのは、先生が毎年毎年くり返してやらなければならないのか、それとも学生が自分たちでやるべきなのか。大学の教員は学問の基礎をどう深めながら応用し、活用し、高めていくのか、そのあたりが本来の教育だと思ふのです。いまは情報社会でもってそのような手段がでてくるわけですから、



やはり使いわけていくべきでしょうし、より早く効率的に受け入れる柔軟性が必要ではないでしょうか。

学長／そうですね。それはもちろん大事なのですが、広く情報を選択し、活用する能力を涵養すること。さらに、選択した情報を加工し、工夫して、新しい情報を発信する能力や実践的に役立てる能力などをいかにして修得するか、これは永遠の課題です。

理事長／高校生が大学に来たいのは、本当に勉強をしたいのか、ただ単に学歴が欲しいだけなのか、みんなが行くからなのか。いままでの講義は一方通行だから、結局学生が受け入れるだけ。そしてテストを受ければ、優・良・可・不可という評価がなされる。このように一方的なやり方だと、例えば暗記して書けばいいやということになる。いままではそのようなところまで深めていけなかったというのが教育の実情でした。けれども、これからは、質疑応答をくり返しながら理解を深め、応用し、創造していく授業が進んでいくべきでしょう。そうして、人間と人間との対話の中で、モラルとか倫理までが問われ、鍛えられていく。学長／専門的な知識を身につけることで、それを組み合わせて具体的な知恵をだしていくということが必要です。同時に、何のためにその知識を身につけるのか。その基礎になるものが、愛と奉仕のためにとか、人間としての価値観を磨くためにとか、人類の平和のためにとかであれば、理想的な自己啓発、自己開発への道となるのです。しかし、自分の肩書きとか自分の私利・私欲のためにばかり働く人間精神をつくると、学業成績は優秀でも、やがて私欲に走って、しまいは窓際族や社会性の欠如した人物としての道を歩むような人生になりかねません。教育者としてこれほど残念なことはありません。専門教育なり専門知識なりをどれだけ施してもらって、どれだけ身につけて、活用・応用できるか。どれだけ社会に還元して、貢献していくのか。これが、問

題です。学園訓である感謝の精神をもって、裏表なく勤勉に励み、感謝と愛と奉仕にあふれた人生こそが、本当に価値ある人生だと思います。ことばだけでは学生には伝わらないから、それをわれわれ教職員が実際にやってみせなければなりません。「実践躬行」ですから。しかし、これは、厳しい聖職者としての道ですね。けれども、常に理想を高く掲げて、一步一步、努力を積み重ねていきたいものです。

理事長／そうですね。いくら教師が教育するといっても、学生が認めなければ教育が成立しない。学生と大学側がともに「質の高い授業とは何か」を真剣に考えることが大事であり、教員たちは努力しながら学生に訴えることです。ですから、やはり今までの講義形式だと伝わらない。ディスカッション形式で、先生側から問いかけて、学生側から答えが返ってくるように、さらにそれを問いなおす。小規模の教室で人間関係がもっと密でなければ、そういう教育はできないでしょう。いまだに量やスケールばかりを追いつける教育が多いのですが、果たしてそれが本当の教育かといえれば、私は違うんじゃないかと思えますね。私たちは、この三十周年を機に、教職員、学生一体となって未来に向かって、第二のスタートをはじめようと考えているのです。それなりの規模でもって、本当にのびのびと学ぶことができる快適な大学づくりをめざす。すべて

で大きいことがいいことであるという、量だけの考え方を変えていかなければなりません。価値観は多様であることに意味があるのに、結局大学でさえスケールを求めるという画一的な価値観しか持っていない。私たちは、量より質で勝負する大学をめざしましょう。

学長／そのとおりですね。このままでは、せっかく大学を卒業したのに、自分で考えて行動できない者が増えてしまう。大学教育も含めて、社会は他人が開発したものを覚えて、あとはまねして実行しているにすぎない。やはり子ども頃から机にかじりついて勉強ばかりして、いい点数をとればそれがすべて、というような偏差価値教育が間違っていたのかも知れません。私たちも含めて、地道にからだを動かして働く重要性を忘れてしまっているんじゃないし、生きるという本質をもう少し真剣に考えることが必要ですね。これからすぐビジネスで役立つ知識と、何十年も変わらない本質、その両方を学生に教えたいですね。学生がその両方を身につけることができるという点が、大学の本当の魅力であるべきなのです。そして、感謝と報恩、愛と奉仕の精神をいかんして日々実践し続けるかなど、社会と個人の在り方を常に念頭に置きながら、勤勉・誠実・謙虚な心で、自己開発の継続と他人や社会への愛と奉仕の実践躬行に喜びを感じる人材の育成に努力を重ねていきたいと思ふます。



新姉妹校紹介

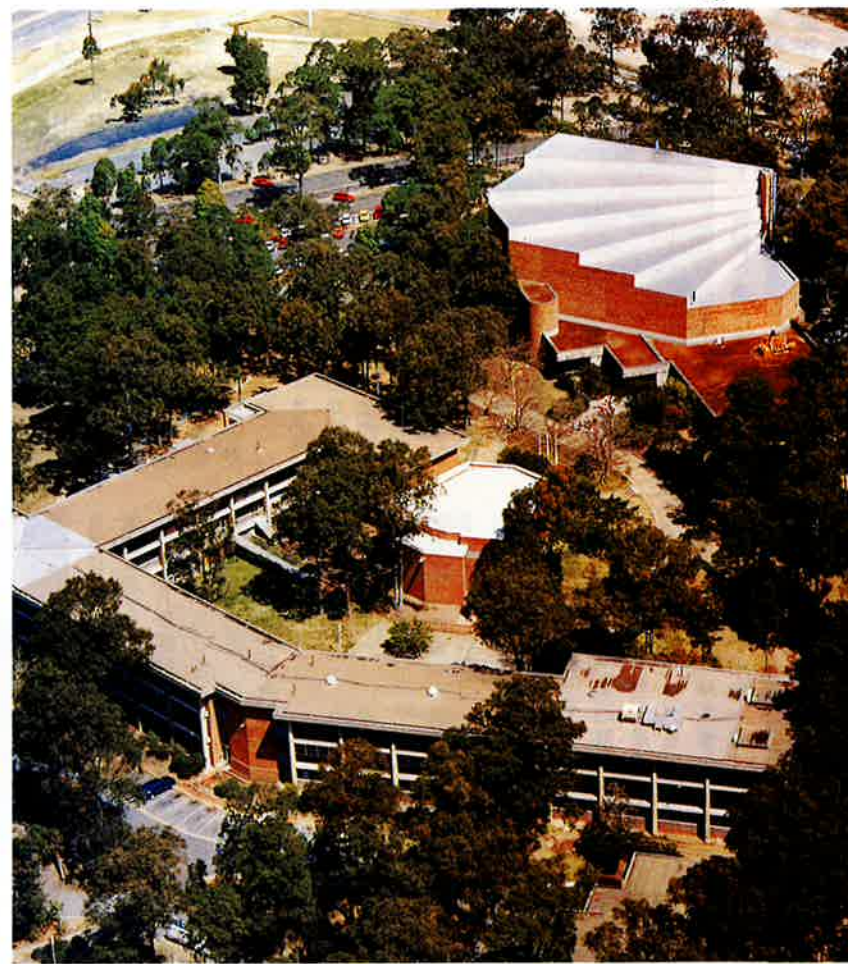
オーストラリア 〈ニューカッスル大学〉

国際交流委員長
●助教 藤嶋 暁



このたび函館大学では、オーストラリアのニューカッスル大学と姉妹校の提携を結び運びとなりました。同大は、オーストラリアの東海岸、函館市の姉妹都市であるレイクマコーリ市の隣ニューカッスルにあり、広大な自然の生態系をそのまま活かしたユニークなふたつのキャンパスに、学生数一万五千名を数える総合大学です。学部学科は、建築学、美術・デザイン、文学・社会学（日本学科もあり）、経済・商学、教育学、工学、法学、医学・保健科学、音楽、看護学、理学・数学があります。

本学ではまず来年度から、留学生の派遣と同大からの留学生の受け入れを行います。期間は一年間。さらに近い将来には、教員の交換やクラブやゼミナール単位での短期的な交流なども積極的に行っていく予定です。米国のハワイ・パシフィックに続いての、この二つ目の海外姉妹校の誕生により、本学の国際交流事業はまた新たな次元で大きく広がりました。



座談会

南半球の真夏をビッグに楽しみました。私たちのオーストラリア研修

函館大学では、世界各地へ、毎年海外研修団を送っています。第14回目に当たる'95年度の海外研修は、赤道を越えて、南半球のオーストラリアへ。

'95年12月12日、高橋助教授を団長とした一行（引率者3名・学生17名・添乗員1名）は成田空港を出発。ケアンズ、ブリスベン、ゴールドコースト、シドニーを回り、12月21日に無事帰国しました。オーストラリア研修での思い出や印象などについて語り合っていました。



- 金子憲司さん
(商学会計コース・北海道／札幌藻岩高校出身)
- 中川 岳さん
(商学会計コース・北海道／札幌平岸高校出身)
- 石川 愛さん
(経営情報コース・北海道／函館東高校出身)
- 民谷美由紀さん
(経営情報コース・北海道／石狩高校出身)
- 団長・司会／助教授 高橋 真
- 副団長／専任講師 田中弘樹
- 引率者／総務課長 大山紀明



●助教授 高橋 真

オーストラリア随一のリゾートを満喫！

高橋／赤道を境に、日本とは全く逆に四季がめぐる、南半球のオーストラリア。日本では考えられないスケールの大きな自然が魅力ですが、皆さんはそのオーストラリアをどのように満喫しましたか？研修中に印象に残った出来事や思い出などを聞かせてください。

民谷／全体の印象としては、今回は少人数でしたから、先生方や参加した学生たちが、最初から最後までアットホームな雰囲気で行ったことがとても良かったと思います。今後もやはり、研修は少人数の方がいいのではないかと思います。

石川／ゴールドコーストのココ椰子の美し



●金子憲司
石川／オーストラリアへ行ってみたい。びっくりするような魅力がたくさんあると思うんですよ。大自然をもっと身近に感じる旅がしてみたい。

意外な自分や知らない日本に気づく旅

高橋／さて、この研修中にいろんな発見があったと思います。皆さんは、いかがでしたか？金子／思ったより、自分の英語が通じたことに驚きました。大山／度胸のない人が多いと思うけど、金子くんは積極的に話かけていたよね。金子／せっかくな海外に行ってきたからには、積極的に話そうと決めていましたから。民谷／私は、現地の先輩の女性の方にエレベーターの中で出会ったんですよ。何歳なのかわからないんですけど、二十歳と答えると、必ずオーバーアクションされるの。歳相応に見えないんですね、きっと。田中／西洋人にとって、東洋人はずいぶん若く見えますからね。中川／僕より背の高い女性にいっぱい出会ってびっくりしました。高橋／オーストラリアの女性は、日本の女性の平均身長より一〇cmくらいは高いですよ。



●専任講師 田中弘樹

オーストラリアは、何度でも行きたい国！

中川／今度はぜひオーストラリアの真ん中に行ってみよう。びっくりするような魅力がたくさんあると思うんですよ。大自然をもっと身近に感じる旅がしてみたい。大山／オーストラリアは、陽射しが強いんですよ。日本とは明るさも違えば、湿度も違うし、日照時間も長い。民谷／それに、コアラやカンガルーをはじめ、ワラビー、ウオンバッドなど、珍しい動物が多いんですよ。私は、とにかく一度コアラを抱いてみたかったから、本物のコアラに会って大満足！眠そうなかわいい瞳と手足を広げた姿が、ぬいぐるみみたいでかわいいの。こうした動物たちとのふれあいが、かけがえのない私だけのオーストラリアの思い出になりました。

金子／英語圏だからできることだと思いましたが、拘束されない自由時間が多くてうれしかったです。それなりに英語が話せたから、とても楽しめました。民谷／シドニーでは、セントメリー寺院のクリスマスミサが美しく印象的でした。中川／中川さんの提案で突然行くことに決まったから、特



●石川 愛



●総務課長 大山紀明

民谷／私も、土地ならではの新鮮な魚介類やポリウム満点の本場の肉料理なんかを食べました。味付けが濃いので日本人の味覚には合わないかもしれませんが、冷えたビールやワインと一緒に食べると本当においしいのです。民谷／私も、せっかくオーストラリアに行ったからには、オーストラリアでしか味わえない味覚に挑戦しようと思っていました。ですが、レストランで英語がうまく通じなくて困っちゃった。石川／そうですね。オーストラリアへ行く人たちにアドバイスをお願いします。金子／短期間の旅行の場合は、出発する前にくわしく調べることが大切ですね。予備知識がもたらしたところ、オーストラリアの違う面が見られたんじゃないかと、いまになって思います。高橋／最後に、これからオーストラリアへ行く人たちにアドバイスをお願いします。金子／短期間の旅行の場合は、出発する前にくわしく調べることが大切ですね。予備知識がもたらしたところ、オーストラリアの違う面が見られたんじゃないかと、いまになって思います。高橋／最後に、これからオーストラリアへ行く人たちにアドバイスをお願いします。



●中川 岳

民谷／その土地でしかできないことや、その土地ならではの料理など、いろんなオーストラリアを体験してください。私のようにほとんどハンバーガーだったということのないように（笑）。石川／つい欲張って、あちこち行きたくなってしまっただけで、自分の足でまわられる範囲で、ひとつひとつの場所を深く体験した方がいいと思います。高橋／本日はお忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。それ、またいい旅行ができるといいですね。



●民谷美由紀

ツクは、もうほとんどやみつき。気がついたら、とくに深夜をまわっていました。高橋／そんな時間までやっていて大負けしなかったの？石川／それが、おもしろいくらい負け知らず（笑）。中国人の女性が、私にずっとつきつきで賭けてくれるから、ますます儲けちゃった。金子／その中国人は、人相の良さそうな人に賭けていくんです。中川／僕たち、人相悪かったのかな（笑）。高橋／ブラックジャックは、少ないお金でけっこう長く遊べるからね。金子／僕の場合、ルーレットもスロットも、大きく狙いすぎて負けるいっぱい。民谷／いいなあ、みんな。そんなゴージャスな思い出があった（笑）。中川／案外、ギャンブルは女の子の方が勝つんですよ。金子／そうそう。欲がでちゃうからね、僕たち男は（笑）。

チャネル別合格談インタビュー

実際にチャネル別の評価によって入学した三人に、お話をうかがいました。

得意科目で、のびのび受けてほしい

本学ならではの少人数教育の利点をフルに活かしながら、多感な青春時代を有意義に送ってほしい。私たちはそうした狙いから、さまざまな個性を持った学生をバランスよく求めていくために、入試制度においても数々のユニークな試みを行っています。



入試委員長・専任講師 今井敏博

●ユニークなアラカルト方式

本学の入試には次の3つの点で大きな特長があります。一つ目は、第一期・第二期入学試験ともに「アラカルト方式」を採用していることです。これは、「国語」「英語」「数学」「簿記」「日本史」「世界史」「政治・経済」の中で、試験当日、会場で実際に問題を見てから、受験科目を選ぶことができる方式です。高校での授業を大切にしていれば、試験当日に受験科目を変更することもできますから、日頃の実力を十分に活かれます。

●成績よりも人間を見る「自己アピール書評価制度」

二つ目は、「推薦入学試験」において、「自己アピール書評価制度」を取り入れていること。これは、それまでに取り組んできたボランティア活動や文化芸術活動、また、大きな感動を得たさまざまな体験などを書面で提出してもらい、評価のポイントに加算するものです。学業成績の他に一人一人の個性や内面を見ていきたいという意向から実施されています。記載する内容は、高校在学中のものに限りません。

●来たれスポーツの才能！「スポーツカテゴリー」

三つ目は、同じく「推薦入学試験」の中の「スポーツカテゴリー」枠です。これは、本学が定める種目において高校在学中にすぐれた成績をおさめた生徒を対象にするもので、入学後も該当種目を続ける意思があれば受験することができます。内容としては、競技歴を中心とした書類審査のあと、公開で行われる実技テスト、面接と続きます。

●募集種目

剣道・卓球・硬式野球・バドミントン・少林寺拳法・ハンドボール・ソフトテニス・ボウリング（※種目により、男子のみの募集となります）

●入試会場は全6カ所

従来の函館、札幌、仙台、東京、大阪に加えて、1996年度より名古屋でも推薦試験・一般試験が受けられるようになりました。

●課外活動等業績評価対象の拡大

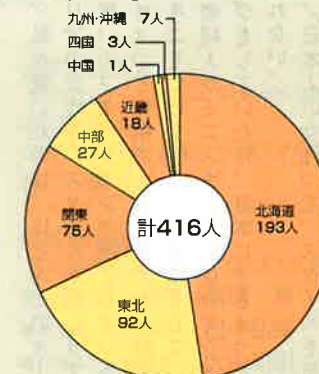
推薦入学、第一期・第二期入学試験ともに、およそ以下のような項目で、課外活動等業績評価ポイントが加算されます。

- ・課外活動（体育・文化）
- ・生徒会活動・奉仕活動
- ・各種大会出場・入賞歴（体育・文化）
- ・簿記検定試験（日商・全商）
- ・英語検定試験（実用・全商）
- ・販売士試験
- ・情報処理技術者（通産省・全商）
- ・TOEFL
- ・秘書検定試験
- ・ワープロ検定試験

●「特別奨学生入学試験」の第一期試験への繰り入れ

従来は独立した入試区分であった特別奨学生入学試験を、1994年度入試から第一期入学試験へ繰り入れしました。第一期入学試験における試験成績上位者を面接し選考。特典として、入学から卒業までの学費（入学金・授業料）を奨学金として給付します。

●1996年度入学者都道府県別内訳



入試事務局スタッフ

教務課長 黒澤幹生
教務係長 岡嶋雅昭
課員 鈴木克尚
課員 荒木弘子
課員 稲村早苗



●一年 山岡優子（北海道苫小牧東高校出身）

アラカルト方式が私に向いていました。

函館大学のアラカルト方式は、一〇〇分で二科目を回答していきます。私の場合、準備してきた得意科目は、日本語と英語と英語。試験では、当初は国語（古文や漢文を除く）と日本史で受けるつもりでした。しかし、試験会場で問題を見たところ、英語の問題に自分の得意な分野がたくさんあったのです。うれしかったですね。これなら国語ではなくて英語で受けよう、と思いました。得意な科目や準備を重ねてきた科目でも、問題によってはその力がちゃんと発揮できると思います。でも当日その場で他の科目も選べるのであれば、精神的にとっても楽です。私のケースでは、英語がまあまあできて、日本史でもなんとか手堅く解答することができました。こういう方式だと、プレッシャーの少ない状態で入試に望むことができますね。

自己アピール書が評価されました。

●一年 小林洋貴（山形県羽黒高校出身）

高校生の時、サークル活動で地域の児童館と自然の家の運営を手伝うボランティアをしました。職員の方々に協力して、自然の中でいろいろな行事を考えて行ったり、クリスマスパーティを企画したり、年間計画を立てて子どもたちといっしょに遊んだのです。また、国際交流のボランティアに参加し、イベントなども企画しました。とてもたくさんのかたちを経験して、自分でもたいへん勉強になりました。高校三年生のとき、山形県の弁論大会があり、そのことを発表したので。ボランティアというもののあり方や、これからの可能性について、国際交流という視点なども交えて。

函館大学の入試では、そのことを自己アピール書に書きました。こうした、一般の入試では評価の対象にならないようなものまで評価してもらえたので、とてもよかったです。現在は、そうした経験を活かして、函館でも何かできないかと考えています。



●一年 渋谷博士（東京都・保善高校出身）

学業特別奨学生に選考されました。

試験成績の上位者には入学金や授業料が免除になる制度があるということは知っていましたが、まさか自分がなれるとは思っていませんでした。まず高校の方へ、候補になつていてという連絡が来て、後日、函館で面接を受けることになりました。筆記試験は東京で受けたので、その時が函館に来た最初です。二人の先生から志望の動機とか大学でやってみたいことを聞かれ、自分なりにせいっぱい答えました。帰京するとまあなく選ばれたという連絡をいただきました。入学から卒業までの学費が給付されるわけですから、両親にも喜んでもらえました。

しかし、卒業までしっかり学業に専念しなければこの資格を失ってしまうので、気を抜かずにがんばらなければ、と思っています。



その他、お問い合わせご相談は、右記まで。

函館大学入試事務局 フリーダイヤル 0120-001172
〒042 函館市高丘町51番1号 TEL0138-57-1181 FAX0138-57-0298(9:00~16:00、土曜日は12:00まで)



【函館稜北高等学校】

よき校風と伝統づくりに努力を続ける
活気にあふれた新設校

本校は、臥牛山や巴港の青い海、北には横津岳を望む、自然環境・学習環境ともに素晴らしい石川町に位置します。函館をはじめ道南地域の住民の要望にこたえて、一九八三（昭和五十八年）に創立され、今年で開校十四年目。

「創造・良識・健康」の校訓のもと「文武両道」を掲げ、知・徳・体のバランスのとれた人格の形成をめざして、学習面だけではなくクラブ活動にも力を入れています。授業面では、生徒一人ひとりの進路を考え、個性や能力を伸ばせるように配慮したカリキュラムをはじめ、希望者には一年次から添削指導、朝学習、講習（放課後、夏期・冬期休業中）、合宿学習等を行っています。

クラブ活動では、平成元年から三年連続全国大会（花園）出場を果たしたラグビー部を筆頭に、文化系・体育系ともに教師・生徒が一体となって活動し、多彩な活躍をしています。

【山形市立商業高等学校】

魅力あるカリキュラムの編成と
明るく活気に満ちた学校生活の創造

大正七年に市立商業高校として創立された本校は、昭和二十六年に旧市立山形女子商業高等学校と統合、新たに山形市立商業高校となって現在に至り、まもなく創立八十周年を迎えようとしています。

「誠を輪（いた）す」を根本精神として、真理と正義を愛し、人間性を尊重し、勤労と責任を重んじ、心身ともに健全な人間の育成に務めています。

授業については、商業科、情報科、経済科の各学科ごとに魅力あるカリキュラムを編成し、生徒一人ひとりの学習意欲の向上と学力の充実を高めながら、きめの細かい指導を重めています。

また、積極的に部活動を奨励し、個性尊重・人間教育にウエイトをおいた教育をめざすとともに、豊かで活気に満ちた三年間を送れるよう、明るい学校生活の創造にも力を入れています。



【東京学園高等学校】

知・徳・体の調和のとれた
のびやかな人格を育てる自由な校風

本校の前身は東京商業学校で、一八八九（明治二十二年）に日本橋に創立されました。商業教育の必要性を痛感した内閣官報局と一橋大学の教授グループが中心になって創設した我が国最初の私立商業学校であり、商業教育界のパイオニア的存在でした。

その後、一九六八（昭和四十三）年に普通科を新設し、大学進学への選択ができるよう教育課程を改めました。さらに平成八年度からは、私立文系型のカリキュラムのもと少人数制で受験指導の徹底をはかる「特進コース」、それぞれの個々の適性や進路に応じたカリキュラムを消化する「普通コース」、資格の取得を重視し情報産業の多様化に対応する「専門コース」からなる、普通科のみのコース制の高等学校となっています。

一九八九（平成元）年に創立百周年を迎えた本校では、「協同友愛・自主独立」の校訓のもとに、学力主義に偏重することなく、知・徳・体の調和のとれた生徒の教育に心がけています。

【大商学園高等学校】

各界に優秀な人材を輩出した
輝かしい百十年の伝統

本校は一八八七（明治二十）年、私立商業学校として大阪市に創立されました。その後、大阪商業高等学校として普通科を設置し、さらに大商学園高等学校と名を改めて今日に至り、来年で創立百周年を迎える、伝統ある総合学園です。卒業生総数、約二万五千人余を数え、産業界をはじめ各方面に優秀な人材を輩出しています。

創立以来、「人格教育を主眼とし、有能で品格ある人物の育成に務める」ことを教育方針とし、国際化・情報化社会に適応できる人材の育成に取り組んでいます。

さらに授業については、商業科、普通科、特進クラスの三コース制をとって、生徒一人ひとりが希望通りの進路へ進めるよう、それぞれに適したカリキュラムを編成しています。

また、輝く伝統のもと、クラブ活動も盛んに行われ、全国大会で優勝したバスケット部をはじめ、高校総体ベスト16のサッカー部など、多くのクラブが全国大会等で上位に入る好成績を残しています。



教員インタビュー
【研究室から】

教員の研究の今を、インタビューでお伝えします。

【論文名】
近世の陸上交通―日本交通史
通論七

◆名誉教授 和泉雄三

●日本史を交通の歩みから見る
ものですね

古代では陸上と海上の小規模な交通しかなかったものが、近世まで来ると運河などができ、現代は飛行機の時代となる。その大きな流れを捉えた研究はこれまでもありませんでした。いまシリーズの七まで来ましたが、八で完結の予定です。最初は自分の交通論の講義ノートだったのですが、通史の無いことに気づき、自分でやってみたくてです。二、三年で終る予定でしたが、十五年以上もかかってしまいました（笑）。

●強調したい点は？

例えば近世の河川交通。東北の大河川などを中心に、従来は海運を補完するものとして考えられてきましたが、そうではない。江戸、京都、大坂という近世の三都を三都たらしめたのは、運河を含めた都市間の河川交通だったのです。これはまた、十七世紀の発達した英国の運河交通と世界史の文脈で比較しても興味はつきません。交通とは、国家の成立や貨幣経済の確立を支えた重要な問題であり、合戦や戦争の重要な鍵を握った概念なのです。



【著書名】
すっけ教授

◆教授 宮崎正孝



●すっけ教授とはご自身のですか。

そうです。私は、小学校、中学校、高校、高専、大学と、すべての学校で教えてきました。その中で感じたり考えたりしてきたことを、自分を題材に一種のカリカチュアとして詩にしました。十年以上温めてきたものなのです。教師や研究者と言っても、児童や生徒や学生から見れば時にうるさい規制者であり、やっかいな試験を与える疎ましい存在でしかないかもしれない。そんな子どもの目線もまじえて、自分のやっていることを書いてみました。

●教員は変わってきたのでしょうか。

学生も教員も、昔に比べればやはりドライになって来ていますね。いろんな意味でぶつかったりふれ合ったりすることが少なくなっている。私はシェークスピアの諸作品に人間関係を描くことの原点を見ます。十七世紀の英国も現在の日本も、人間と人間がすることに本質的な違いはありません。そのどこに視線を合わせるかで、さまざまなことが見えてくる。これは私が打ち込んでいる剣道にも通じることです。

【訳書名】
物語芸術における引用句
（ヘルマン・メイエル）

◆教授 山崎義彦

●ヘルマン・メイエルのプロフィールを。
アムステルダム大学でドイツ文学を講じていた世界的独文学者で、私の師友です。六十五歳の時に出版された記念論文集は、九百頁以上の大冊でした。残念なことに三年前にガンで亡くなりました。

●骨子をご説明いただけますか。

原著は、メイエル博士の著書のひとつで、一九六一年に出版されました。ヨーロッパのユーモア小説の中に引用句がどう使われているのかを、中世から二十世紀にわたる長いスパンで捉えた研究です。これまで脇役であった引用句にスポットライトを当てることで、これまで知られなかったヨーロッパ小説の一面を浮かび上がらせていますが、極めて興味深い内容で、ヨーロッパ文学の最良の読書案内にもなっています。



【論文名】
戦後五十年・われわれ消費生活の変化を見る

◆助教授 赤松潤



●家計費の中身の推移を考察したのですね

いうまでもなく、消費生活はお金の使用によって成り立っています。そこでまず総理府の家計調査をもとに、戦後五十年で家計費がどのように使われてきたのかを調べました。敗戦で壊滅的な経済状態だった時点から今日のまでの。そこから、大きく掘り下げた有形ものから無形なものへ、洋風化、国際化、情報化、レジャー化といった傾向がうかがわれます。

●数字をあげるとどうでしょうか

例えば全支出に占める食費の割合、エンゲル係数は一九五〇年には七四・三％もありましたが、一九九四年では三六・七％に半減。余暇の支出としての娯楽費は、一九五〇年には全支出の八％程度だったものが、一九九四年には十九％に。面白いところでは、一九四五年には三％あまりを占めていたタバコへの消費が、現在ではわずかに〇・三％になっています。健康志向がうかがわれますね。アルコール類でも、清酒や焼酎は減少、ビールだけが増えています。社会がソフト化して来ているわけです。

函館の風景を描き続けたい

◆教授 小川弥八郎

日銀OBで本学では金融論を担当している小川先生は、旧制中学校以来の日曜画家。「函館中学（現・函館中部高校）の白楊画会に入ったのが、本格的に絵を書き始めたきっかけです。銀行時代は本店のほかに、金沢や神戸などに赴任しましたが、各地で同好の士を集めて絵画部を作りました。仲間が刺激し合って描くのが好きなのです。本店時代は、ふた月に一度くらい、上高地や八ヶ岳や十和田などに写生会に行きました。楽しかったですね。日本の各地には、チャールズ会という日曜画家の集まりがあります。日銀を退官してまず金沢に暮らした先生ですが、当然金沢のチャールズ会での活躍が始まります。ふるさとの函館に落ちつかれてからは、函館のチャールズ会での交流が始まりました。「函館は美しいまちですから、絵のモチーフになる風景には事欠きません。家は古くから西部地区にあります。こちらに帰ってきたときに、蔵なども含めて梁や柱など古いものを活かし改築しました」。それで市の景観賞をいただいたそうです。



身近な自然をもっと楽しみたい

◆会計係長 阿部洋子

いつも何かひとつのことに凝ってしまう性格だという阿部さん。「以前、硬式テニスに夢になっていた時期がありました。三年くらいは、週に三回くらいクラブに通っていたでしょう。でも、夢中になりすぎて、テニスエルボーになってしまいました。リハビリをいろいろやってもダメで、結局、それ以後、遠のいてしまいました。その代わりとばかりに熱中したのが、スキーですね。それまでは寒いばかりの冬が憂鬱だったのですが、始めてからというもの冬があつという間に終わってしまいます（笑）。五月の連休に八甲田山で滑ったことは忘れられません。Tシャツとジーンズ姿で滑り終えた後、かき氷をいただくというのは、春スキーならではのですね。教職員にはスキー愛好者が多いので、毎年クラブで二セコなどに行きます」。

冬以外では、最近では、道南の森や花や滝などを散策したり、温泉に行ったり、身近な自然を楽しんでいるそう。「近くの自然に対して、私たちは意外に知らないところがあるのではないのでしょうか。休日には、もつと外に出ていきたいですね」。



日本のことを、もっともっと知りたい

◆専任講師 ブライアン・ダッフ

「先日、函館市民会館で歌舞伎を見ました。分らない部分もたくさんありましたが、とてもおもしろいと思いました。衣装とか声の抑揚や節回しとか、西欧には全くない世界ですから」。ブライアン先生は、三年ほど前に、米国テキサス州のダラスから日本語と日本の法律を学ぶために来函しました。休日には車で北海道を回ったり、本州方面へも、大阪、京都、東京などへ積極的に出かけていって日本の文化や情報を貪欲に吸収しています。「学生にとっては私は英語の教員ですが、仕事を離れたときの私自身は、日本語を学ぶ生徒です。いま、インターネットを使って、イギリスのシェフィールド大学の大学院で二年間の日本語のマスターコースを履修しています。定期的にレポートを出しますが、すぐにそれに対するコメントが返ってくる。インターネットのメリットを実感していますよ。函館にいながら、東京やニューヨークやロンドンと、ほんとに手軽にコミュニケーションできる。これはすごいことだと思います」。



第二のふるさとになった函館

◆講師 石本一昭

名古屋から月に一度ほど来函されて銀行論の集中講義を行う石本先生は、名古屋証券取引所の専務理事を務める金融のスペシャリスト。函館とのつき合いは、日銀の函館支店長時代から。「赴任したのは、ちょうど青函トンネルが開通した一九八七年です。函館が観光都市宣言をしたり青函博があったりと、大いに盛り上がりつつありました。九〇年まで函館で暮らしたことが、いまでも大切な体験になっているという石本先生。「ハリストス教会の近くに高層マンションの計画が出されて反対運動が起こり、私も強い関心を寄せていました。計画は撤回されたのですが、函館の歴史的な建築物は、ふつうの街並みの中にあって生きています。明治村や開拓の村のように、生活と隔絶された場所が余生をすごしているのではありません。それが素晴らしいですね。日本に人口三十万人クラスの都市はたくさんありますが、函館ほど存在感のあるまちはないと思います。それはやはり、古いものを大切にしている心をもっているからではないでしょうか」。



人生から野球をとっても、やっぱり野球が残るでしょう。

◆学生課長 宮腰泰直

函館大学一期生の宮腰課長。お馴染み、野球部の熱血監督です。「高校時代は外野、大学と函館オーシャンクラブにいた時は、ピッチャー。サウスポーで、負けず嫌いで、いくら打たれても右バッターのインコースばかりをストリートで攻め続けるようなピッチングでした（笑）。当時は監督がいなかったの、変化球も自分たちで研究して覚えました。そうしたこともあって肘を何度もいためてしまった。だからその分、今はケガをしない野球を徹底して勉強しています」。学生課の仕事も野球の監督の仕事も実はとてもよく似ているとか。「まず何と言っても口やかましい憎まれ役であるところ（笑）。ただ、一方的に叱りつけるようなことはしません。いまの学生たちは怒られた経験があまりありませんから、対話しながらこちらの考えを伝えることが大切です。なんでも手に入る世の中ですが、それだからこそ、我慢しなければならぬことがあるということ。学生たちには、野球を通して、そんなこともわかってほしいと考えています」。



函館での生活と交通マナー

◆教務課員 鈴木克尚

三年前、東京から函館にUターンしてきた鈴木さん。東京では国際航空貨物の収入管理業務に従事し、とにかく時間に追われるハードな毎日だったそうです。「Uターンした当時は、自分の欲しいモノ・情報などが函館ではなかなか手に入らず、改めて東京の便利さを感じましたが、やはり住みやすさは函館の方がはるかに勝っていると思います。とりわけ、通勤に関しては、以前は地下鉄と電車を乗り継いで約七〇分、しかも真夏の冷房のない地下鉄は乗るたびにダイエットをしているような状態でした（笑）。現在はマイカー通勤で約十五分、東京ではまず考えられないことです」。

ただ、ちょっと残念なのは、函館のドライバーマナーの悪いこと。「私はこちらに来てから運転するようになりましたが、スピードの出すぎ、突然の車線変更、路上駐車など事故につながるような場面によく出くわします。交通マナーは、ドライバー一人一人が認識しなければなかなか改善されないと思います」。



新人です。よろしくお願いします

◆総務課員 武石有美子

この春に函館短期大学を卒業して、総務課に勤務している武石さん。現在の仕事は、協学会の会計、学長の用務、公開講座の準備などです。短大では、生活教養コースで、一般教養の他に秘書業務やコンピュータの操作なども学びました。「函館大学には、短大在学中からよく来ていました。食堂にお昼を食べてきたり、ホールでおしゃべりしたり。でも、学生で来ていたときと総務課のスタッフとして大学側にいる今とでは、立場が全く違いますから、毎日がまだまだ緊張の連続です。外から見ていると、職員の仕事がいかに大変だとばかりかもしれませんが（笑）。まだ、与えられた仕事をミスなくこなしていくだけで精一杯という武石さん。気をつけていることは、仕事を正確に進めること。「毎日が失敗の連続なので、一日も早く完璧に仕事をこなせるようにしたいです。短大以来、スポーツとは無縁の生活になってしまいました。仕事に慣れたら、またスポーツを始めたいと思っています」。

想い出往来

「定年退任後に思うこと」

◆名誉教授 伊藤 結城夫

今年の夏は、北海道では比較的に低温で、曇り空の日が多く、農作物の生育状態が心配される程でありました。この夏は、私が大学の教職を定年退職した後に、最初の夏休みを経験した季節でありました。一九六五年四月、私は函館大学に助教として就任しました。それから一九七五年四月に教授となり、一九九六年三月に退職したのであります。三十一年間、函館大学で大学生活を送ったわけであり、今年の四月からまた、特任講師として授業に動いんとおりますので、教育と研究の仕事に関しては、従来と大きな変わりはありません。

函館大学は一九六五年の開学であり、現在に較べれば、その当時、図書館においては学問上の文献が未だ少なかったようです。戦後から昭和四十年までに学術書は相当多く出版されておりましたが、昭和四十年から現在までにはそれにも増して発行されたように思われます。それで函館大学図書館では、哲学やドイツ語の文献もかなり充実して揃えられました。私の蔵書もずいぶん多くなりました。

顧みれば、私は昭和二十四年に京都大学に入学しました。その当時、教養書や学問上の書籍は古書でなければ入手できない場合が多い状態でした。私も、その当時学生時代を送った人々のように古書店めぐりをしました。京都では寺町、丸太町、今出川通り、河原町や京都大学近辺の書店を度々訪れました。東京では神保町や小川町の書店をめぐる歩いたことも幾度ありました。昭和二十八年四月、私は京大大学院文学研究科に入学しました。私にとってはその頃から、洋書が新刊で購入しやすくなったようです。しかしカントの純

粋理性批判は、学部学生の頃、教科書として新刊で使用できました。一九五二年、R・シユミット版が出版されておりました。

函大開学当時、函館では洋書の購入がちょっと不便でした。どのような書籍かを調べるのが難しかったのであります。それで札幌が東京へ赴いた折りにしか、その現品に接することができませんでした。しかし丸善書店の方や紀伊国屋書店の方が函館大学に訪れるようになり、洋書の購入がとても好都合になりました。和書は函館市内の書店が便宜を提供するので、容易に揃えられました。それに応じて研究の方途が調えやすくなったのであります。

函館大学の図書館蔵書が拡充し、私の書籍もずいぶん増えました。学術文献がかなり充実しましたが、私はもう定年退職となったので、これから時間的余裕をみて、研究を進めたいと目論んでおります。昨年私は病気に罹り苦しみました。快癒したので、さらにこれからの人生を企画しようと思っております。それに時々書籍を眺めながら、過去の時代を省みることがよくあります。



「私の夢」

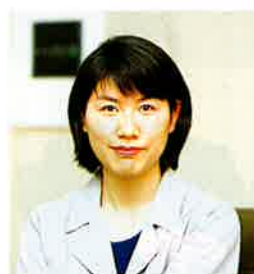
◆元総務課長 小林さとみ

平成八年三月三十一日付をもって函館大学を退職いたしました。皆さまには、大変お世話になり、また色々な事を学ばせていただきました。本当に、本当に「ありがとうございました」と声を大にして言いたい気持ちでいっぱいです。大学での出会いや出来事は、私にとってとてもプラスになったと思います。

カッコつけた言い方をすると「私の夢」のために退職して、それに向って少しづつ進んでいるというのが現在の状況です。私の夢というのは、簡単に言うと「花屋さん」。

どういうか花屋さんの花屋さんになるか、まだはつきりしていないのですが、花を栽培したり、ドライフラワーを作ったり、自分が納得できる作品を作って、皆さまにもよろこんでいただけるようにしていきたいです。説明がうまくできませんが、とにかく自分が考えた仕事をしたいと思っています。います。この歳になって、いやこの歳だからこそかもしれないが、自分の人生をきり開いていっています。ものすごくスローペースだけど自分のペースで。もちろん、今やっていることが大成功につながるかは限らない。でも、絶対、絶対、自分の肥やしになっているし、成功させてやるんだあつて気持ちは毎日持っています。もし、途中で挫折するようないことがあっても、きつと後悔しないと思う。自分で決めたことだから、誰かのせいにはしたくない。肩に力を入れなくて、あせらないで、この二つを心にとめて、ガンバっています。

退職してからの数ヶ月、大学の事を時々思い出して、自分がそこに本当にいたのかなあと少し不思議に思うことがあります。今の私は、土まみれになっていたりするから。最後に、もしどこかでドロンコになっているお姉さんをみたら、それは私です。でも、おばさんにみえるかもしれない。その時は、声をかけてください。では、その時まで「さようなら」。



平成八年度就職戦線

「地道な学生生活こそ内定への王道」

一九八九年頃から始まった、いわゆる平成景気（バブル景気）に五年もの間、日本中が踊らされた。しかし、学生の就職活動についてみれば、学生に安易な就職意識を植え付けただけの招かれざる台風のようなものであった。バブル景気崩壊後、マスコミ各社は超買手市場に急転換した就職環境を「超氷河期・氷づけ」などと呼称し、その荒涼とした就職環境を悲嘆した。

しかし、バブル景気発生前の採用環境はというと景気崩壊後のそれとそれ程変わっていない、つまり、採用環境の歴史の中で繰り返される通常の厳しさの範囲に属したばかりのことなのである。

就職活動に王道はない。学生は自己の特性を知り、適職を選択し、希望企業に果敢にアタックする。この地道な就職活動こそが、内定獲得の王道なのである。そして、何にも増して重要なのは勉学やクラブ・サークル活動等のこれまでに蓄積した知識や経験の程度である。大学三年間の生きざまが問われるのが採用選考なのである。



◆就職部長・助教授 大江田清志



●就職課スタッフ
就職課長 新関喜美男
係長 干場 勝
課員 丸山真理子

幸い、本学ではバブル景気においても就職指導の基本を見失うことなく、教職員による全国数百家の企業訪問や主要都市での就職懇談会により、人脈を豊かにし採用情報を的確に収集してきた。また、学生の自己分析を助長するため学生一人ひとりと面談をするなど、フィジカル、メンタルの両面において、多大な時間と費用を投資してきたのである。就職超氷河期といわれる、昨今の就職環境にも好調な本学就職実績の要因がここにある。

◆平成八年度就職指導スケジュール

- | | |
|-----|---|
| 4月 | ● 4年次就職ガイダンス
● 4年次就職個人面談
● 4年次就職希望企業調査 |
| 5月 | ● 4年次就職個人面談
● 業界研究会・就職懇談会（函館）
● 求人申込書・就職要覧等発送 |
| 6月 | ● 就職活動状況調査
● 3年次就職講座 |
| 7月 | ● 求人票公開
● 就職ニュース発送
● 就職活動状況調査 |
| 8月 | ● 採用選考開始
● 企業訪問開始 |
| 9月 | ● 就職活動状況調査 |
| 10月 | ● 3年次就職ガイダンス
● 3年次就職講座
● 3年次就職個人面談
● 3年次就職希望企業調査
● 採用内定開始 |
| 11月 | ● 3年次就職ガイダンス
● 3年次就職講座 |
| 12月 | ● 3年次就職ガイダンス
● 3年次就職講座
● 就職ニュース発送 |
| 1月 | ● 3年次就職ガイダンス
● 3年次就職講座 |
| 2月 | ● 3年次就職ガイダンス
● 3年次就職講座
● 就職懇談会（東京・大阪） |
| 3月 | ● 3年次就職ガイダンス
● 3年次就職講座
● 就職懇談会（東京・大阪）
● 次年度採用情報収集 |

ズームインキャンパス

武道館

キャンパスの南西端に位置し、一九八七年（昭和六十二年）に落成した、鉄筋コンクリート造り二階建ての格技場です。床面積は三四四・三二二㎡。一階は、柔道では二八畳敷きの広さで、剣道部、柔道部の二つの部を中心に、週ごとに時間帯をローテーションして使用されています。二階には、卓球部などが使用する多目的練習場、器具庫などがあります。

剣道部、柔道部は、函館市内の北海道大学水産学部、北海道教育大学函館校、青森大学など他大学との交流試合も積極的に行っています。全道はもとより全国大会においても実力を遺憾なく発揮している剣道部の強さは、この凛とした空気がみなぎる武道館での、厳しい稽古によって磨かれていっているのです。また、その落ちついたたたずまいにふさわしく、囲碁の対局やお茶会などが催されることもあります。



就職資料コーナー



業界研究会風景

ヨーロッパ史から見る
資本主義の成立経済史ゼミナール
◆教授 石井晋良

資本主義経済がどのように形成され推移してきたのかを、十六〜十九世紀のイギリスの動向を中心に考察しています。「高校までの歴史は、いわば政治史中心の勉強でした。それに対してこのゼミでは、あくまで経済の流れを通して今日の資本主義にいたるまでの動向を理解してもらおうとしています。また、単に過去の事象を憶えるのではなく、そこから現代の問題の解決に役立つヒントが見つけられないか、という問題意識も大切です」。例えば十八世紀の重商主義の時代にも貿易摩擦の問題があり、さらには泡沫会社の存在がありました。そこから、時代の過渡期にバブル的な現象が起こるのかもしれない、という仮説を建てることもできます。「歴史は、決して暗記する学問ではありません。ある事件は、国際的な文脈の上でなぜ起きたのか。そしてそれはその時代と後世にどんな影響を及ぼしたのかという、因果関係を大きな流れとしてつかまえる必要があるのです」。ゼミ生諸君も、歴史を経済的視点から学ぶ新鮮な面白さに強くひかれています。

消費を切り口に現代社会を考察する

消費者行動論ゼミナール
◆助教授 赤松 潤

モノやサービス、情報など、私たちが消費するものが対象。モノ離れと言われて久しい今日ですが、例えばファッションの一部の人気ブランドの隆盛は衰えていけません。他の商品と比べて機能には変わりはないのに、なぜそのブランドが選ばれるのか。そうした疑問に答えるために、赤松ゼミでは、買うことの満足や買うことで得られる自分らしさといった「意味」を求める現代の消費行動を、多面的に考察しています。「専門書を教室で読んでいただけでは始まりません。まず消費の現場を体験しなければ。現在は三つのテーマに分かれて、それぞれ自分の最も興味のあるものを選んで研究を進めています」。三つとは、広告、外食産業、流通。広告であれば例えば商品の安全性という視点から毎日の新聞広告を分析してみる。流通であれば、スーパーやコンビニなどの業態毎に価格戦略や商圏を分析するといった具合です。「自分が毎日していることが勉強の対象になるのですから、学生たちの興味も尽きないようですね」。



日本の株式市場を徹底研究

財務管理論ゼミナール
◆講師 大沢 泉

資本の調達と運用の場として、日本経済のエンジンとも言える株式市場。大沢ゼミでは、この株式市場について、成り立ちや国際比較をふまえながら、基本的なメカニズムと特性を明らかにしていきます。また、自由、公正、公平を宗とする株式市場ですが、日本の場合にはともすればそれがいびつな形にあるとも言われることがあります。そこで日本市場の特殊性についても、企業の財務管理の視点からさまざまに考察しています。「大学で学ぶことは必ずしもすぐビジネスで役に立つわけではありません。しかし、ものごとの見方や考え方、問題の立て方や資料の探し方など、ビジネスの基礎となる非常に重要なものは、大学で身につけることができます。そのことをしっかりと理解してほしいのです」。さらに、株式市場と財務管理について学ぶことは、知識を単純に増やすことではない、とも。同じように大切なのは、ゼミの学習を通して幅広い教養を身につけること。出会った友人を生涯の友とすることではないか、と語る大沢先生です。



産業の単位で日本経済を考える

産業論ゼミナール
◆専任講師 寺田隆至

寺田ゼミでは、毎年大きなテーマをひとつ据えて、それに基づいて各自がそれぞれに自主研究を深めていき、全国の大卒生が集まるインターゼミで発表することを目標にしています。昨年のテーマは、「日米自動車産業比較」。今年は「規制緩和と日本産業の歴史的課題」。「私はおおまかな見取り図を示すだけです。学生諸君には、自分たちなりに問題を設定して、それを自分で解決していくことの面白さを実感してほしいですね。なるべく私がしゃべらないようにしています」と寺田先生。自動車産業の比較では、生産、販売、市場の三つの軸で詳細なデータを集め、それをもとに両国の自動車産業の生い立ちや開発力、生産や販売方式、法規制など幅広い検討がなされました。アメリカ車は日本でなぜ売れなかったのか。その疑問が解けてとてもおもしろかった、という声も。「ゼミを通して、自分の意見を全体の中で対峙したり、それをきちんと表現できるよう力を付けてほしいですね」。



Seminar

インターゼミ
報告平成7年12月23〜24日、第42回日本学生経済ゼミナール
中央大学大会が開催されました。この大会は、経済・経営・商学系学生の全国的な研究大会。
全国約60の大学から3千人もの学生が集まり、
様々なテーマで論文発表・討論を行います。

本学からは、

藤嶋ゼミ 「ころんだって函館—経済復興の手引き書」、
会社実験研究会津金ゼミ 「マルチメディア・ビジネスの展望と必要性—
マルチメディア社会の現実化」、寺田・坂田ゼミ 「日米自動車産業比較—日本市場の閉鎖性か、
アメリカの企業努力か」

が参加しました。

参加者に大会参加の感想を寄せて頂きました。



◆津金ゼミナール四年一同

あれは寒い冬の日、そう十二月二十三日クリスマススイブだった。僕たち津金ゼミ一行は、中央大学へ向かった。その手には、汗と涙の結晶である論文がしっかりと握られている。この論文は、僕たちが毎晩のように夜遅くまで残り書き上げた力作だ。中央大学に着いた瞬間息をのんだ。なぜなら、驚くほど広く、「これがキャンパスかよ」という感じであったからだ。

そろそろ大会の内容に触れたい。熱戦の一言であった。他校（京都大、城西大、立命大）との熱戦を通して、レベルの差はそう感じなかった。むしろ、僕の論文の方が良かったのではないかい？後輩たちよ！次は君たちの論文で。

◆前多 聖（寺田ゼミナール四年）

インターゼミ参加の意義は大きかった。色々あるが、まずはインゼミ参加を目標にすることで、僕らのゼミの雰囲気が発達したのが良かった。論文作成は、各自が論点を分担し、勉強の成果を持ち寄る形で行った。自分の考えを文章で表現する作業は大変だったが、論文が次第に形を整えていく中で、「楽しさ」のようなものも味わうことができた。



中央大学の長いトンネルを抜けると日本学生経済ゼミ大会の会場であった。世間はクリスマスモードに浮かっている十二月二十三日。僕はここにいた。この大会は、聞いたこともないような大学や偏差値の高さで知られる一流大学の学生が全国から集まり、各パールのテーマにそって討論する場である。勝者と敗者を決めつける大会ではないが、討論を充実させるためには長い準備を必要とした。相手校（札学大、松山大）とのスケジュール調整、論文作成といった神経を使うことが多く、先き行きに不安を感じたこともあった。しかし、色々な人や出来事に巡り会い、多くの人と友情を深めることが出来た経験は、大学生活の貴重な財産になったように思う。

中央大学での討論の相手は、明治、東京経済の二校だったが、論破されることなく僕らの意見を最後まで貫き通せた事は大きな自信になった。後輩諸君にも、インゼミ参加を是非継続してもらいたい。そして、この貴重な経験を肌で感じてほしい。

ビジネスマナーABC

◆専任講師 佐藤元治



「入社後配属が決まったら」一口にビジネスマナーといっても多岐にわたります。ここではそれを広義にとらえ、学生の皆さんが卒業し入社後配属が決まったらどんなことに気をつけたら良いかについて述べます。

多くの場合、皆さんは〇〇部〇〇課に配属されるということになり。まずは、自分が会社においてどんな位置を占めているのかきちんと掴むことが大切です。社員手帳、会社案内等の組織図で自分の部署を確認しましょう。大会社であれば、〇〇本部があるかも知れませんが、自分の所属する本部、課の会社内での役割をよく知り、それらを踏まえて自分の職責をしっかりと理解しましょう。また、新入社員としての自分の権限、責任の範囲がどこまでなのかを的確に把握することも必要です。これらを怠ると、社内外の人との交渉、商談で、見当違いの受け答えになりかねません。

次に挨拶です。出社、帰社、来客、客先訪問時等、ビジネスの世界では挨拶する機会に事欠きません。挨拶のしかた一つで、その場の人間関係がスムーズにいったりいかなかったりします。では、相手が気持ちの良い挨拶とはどんな挨拶でしょうか。新入社員は新入社員らしく、具体的には、元気良くかつさわやかな挨拶ということになるでしょう。

服装、身だしなみはどうでしょうか。中には、仕事をきちんとしていれば外見なんてどうでもいいじゃないかという人もいます。確かに一理ありますが、得策とは言えません。日頃から親しく付き合っている人は人柄で人物を判断することができますが、ビジネスの場で接する人はそういいうけにはいきません。服装、身だしなみ、態度、雰囲気等で相手を判断するのはやむを得ないではないでしょうか。とすれば、外見にも十分気を配るべきで、機能的で、清潔感があり、その場に合った服装、身だしなみを心がけるべきです。

最後に、皆さんが所属する部署でビジネスマナーに長け、お手本となる一人を見つけてみましょう。その人の言動、身だしなみ等を真似していれば、知らず知らずのうちにマナーが身に付くはずです。また、仕事を成し遂げるといふ気概、責任感がなければ、ビジネスマナーなど何の役にも立たないとは言ってもありません。

思考する。発言する。行動する函館大学。

河村学長新姉妹校訪問
姉妹校提携を結んだオーストラリア・ニューカッスル大学を関係職員と共に、今後の交流計画等の打ち合わせのため、十二月中旬函館を立つてオーストラリアに向かうことになっています。

高月 晋教授の著書

「たとえ」で学ぶ英語
八月に丸善から丸善シリーズとして出版され、英語圏で使われている文化性のにじみ出た表現を、面白い形で紹介されていると云うことで学生の間で人気を集めている。

●部局長・室長・委員長（平成八年度・平成九年度）

教務部長（教務委員長）	助教 高橋 真
学生部長（学生委員長）	助教 新谷典彦
就職部長（就職委員長）	助教 大田清志
図書部長（図書委員長）	助教 赤松 潤
電子計算室長（電子計算委員長）	助教 若松裕之
産業開発研究所長	学長 河村博旨
経営研究所長	教授 大野和雄
函館大学論議編集委員長	教授 満田春夫
函館大学論議委員長	助教 片山郁夫
入試委員長	専任講師 今井敏博
国際交流委員長	助教 藤嶋 暁
公開講座実施委員長	助教 西村 淳
自己点検評価委員長	助教 坂田 聡

●企業派遣講師交替案内

旧 田上 寛（東京海上火災保険株式会社）
新 村上昌弘（東京海上火災保険株式会社）

おめでとう百連勝偉業ついに達成！ ハンドボール部
この秋、北見市で行なわれた第二十八回北海道学生ハンドボール秋季リーグにおいて、本大会二十連覇三十回目の優勝を成し遂げるとともに、道内において昭和六十二年から続いている連勝記録を未踏の百と伸ばしました。さらなる今後の奮闘を期待します。おめでとう！

協学会よりひとこと



協学会副会長
●教授 高月 晋

協学会とは在学生のご父母等の皆様と本学教職員とが相互の理解をもつて、学生諸君と大学関係者との間の福祉の増進に寄与することを一つの目的として活躍する組織なのです。

学生のご家庭と大学との懸け橋の役目を担う協学会では、地元函館だけでなく、函館より遠方から函館大学へ学びに来られているご子弟様のご家庭とも、大学との関係を緊密に保つために毎年夏に北海道内外をまわって協学会地区懇談会を開催しております。

一九九六年度には、北海道及び本州の九都市で開催されました。簡単にその内容について触れてみますと、協学会代表のあいさつ、大学代表からの近況についてその概況の説明、教務関係代表による教務に関する事項の説明（進級・卒業要件の単位について、出席率と留年の関係、履修と自宅学習についてなど）、学生生活に関する事項を学生関係代表者による説明（マイカー運転やそれによる通学の問題点、健康の定期健診の結果の説明、成績優秀者に対する特待生に関する説明、課外活動の近況説明、アルバイトと成績との関係、下宿生活などアフタースクールの問題点など）、就職関係に関する事項をその関係代表者による説明（その該当年度の就職の見通し、日本国の経済の概観及び経営環境と採用状況、雇用の様態、企業のラインに関する説明、学生諸君の就職に関する心構えなど）。

そしてこれらの説明の後に、ご父母の皆様の日ごろの心配事や疑問点にできるだけ答えようとする質問の時間も設定されてお

り、大学側はその場で答え得ることは答え、後に検討して答える問題は宿題として持ち帰るなど、積極的なご父母の皆様との懇談・質疑応答のチャンスが与えられております。

その後、個人面談の時間として、ご息女の出席状況や成績、就職や函館での生活に関する問題など、具体的に細部にわたって話し合う時間をもたれております。毎年有意義に行われていることをお伝えできております。これも皆様方の暖かいご理解とご協力によるものと感謝申し上げます。

本年度は、函館・札幌・旭川・室蘭・帯広の北海道五都市と青森・仙台・東京・大阪の北本四都市において、役員様のご協力を得まして、成功のうちに終えることが出来たことをこの紙面を借りて報告し、また関係各位の皆様には感謝を表したく思います。出席されましたご父母の方々もそれぞれ満足された様子でした。同時に本学への理解も深まった模様でした。

最後になりましたが、協学会には、本大学の施設拡充・学生のクラブ遠征への援助・学生の研究発表への援助・研修旅行（国内・海外）などへの援助、また教員の出版・執筆活動に関しても、出版図書や買い上げなどに對して援助をいただいております。

今後とも協学会の活動にご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。



体育クラブの主要成績

【軟式庭球部】

- 春季北海道学生ソフトテニス大会（旭川市）5月
団体 準優勝
個人 金森 淳・矢作竜一組 準優勝
中田和光・三本木崇組 3位
- 北海道学生ソフトテニス選手権大会（札幌市）6月
団体 3位
個人 吉澤和彦・鶴岡直忠組 3位

- 全日本学生ソフトテニス選手権大会（山形市）8月
団体 ベスト32位

- 平成八年度 秋季全道学生ソフトテニス大会（帯広市）9月
団体男子（1部）準優勝
団体女子（3部）準優勝
- 第19回全道大学対抗ソフトテニス新人選手権大会
- 第27回全道学生ソフトテニス新人選手権大会（札幌市）10月
団体Aチーム 優勝
Bチーム 3位
個人 吉澤和彦・鶴岡直忠組 準優勝
金森 淳・木村陽一組 3位
澤田圭佑・増田博己組 3位

【剣道部】

- 全日本学生剣道選手権北海道大会（札幌市）5月
個人 田中敬三 優勝
八代 誠 3位
- 第44回全日本学生剣道選手権大会（東京都）7月
個人 八代 誠 ベスト16
東西対抗戦優秀選手賞 田中敬三

【柔道部】

- 第43回北海道地区大学体育大会（帯広市）7月
団体 準優勝

【硬式庭球部】

- 全日本大学対抗テニス王座決定戦北海道予選（函館市）6月
函館大学 8-1 室蘭工業大学
函館大学 5-4 北海道大学医学部 3部優勝
- 2部昇格戦（帯広市）7月
函館大学 5-4 帯広畜産大学 2部昇格

【羽根球部】

- 北海道学生バドミントン春季リーグ大会（江別市）4月
団体男子（1部）準優勝
- 北海道学生バドミントン選手権大会（岩見沢市）5月
ダブルス 西川和成・宮本清治組 準優勝
シングルス 三上直也 優勝
- 1996年度北海道学生バドミントン秋季リーグ戦（江別市）10月
団体男子（1部）2勝2敗 3位

【準硬式野球部】

- 北海道地区大学準硬式野球連盟リーグ入替え戦（広島市）6月
2部に昇格
- 北海道地区大学準硬式野球秋季大会（苫小牧市）8月
ベスト8

【ハンドボール部】

- 北海道学生ハンドボール春季リーグ大会（札幌市）5月
優勝 19季連続29回目の優勝
- 第28回北海道学生ハンドボール秋季リーグ（北見市）10月
優勝※本大会20連覇30回目の優勝
昭和62年春～平成8年まで100連勝中
選抜選手 全日本男子Bチーム選手選考会合（5月）
片岡達也
- 全日本学生男子選抜チーム ロシア遠征（8月）
片岡達也

- 第5回アジア男子ジュニア選手権兼世界選手権予選（アラブ首長国連邦）8月
奥野 誠



奥野 誠

【卓球部】

- 春季北海道学生選手権大会（岩見沢市）5月
団体（2部）3位

【硬式野球部】

- 北海道6大学野球秋季リーグ戦（旭川市）8～9月
1部リーグ 4勝6敗 4位
選抜選手 ベストナイン 捕手 大熊 健

【ボウリング部】

- 第28回東北学生ボウリング選手権大会（山形市）8月
5人チーム戦 函館大学A 3位
2人チーム戦 函館大学B 優勝
- 第27回東日本学生ボウリング選手権大会（山形市）8月
17位

【少林寺拳法部】

- 第27回北海道学生少林寺拳法大会（札幌市）6月
級拳士の部 優良賞（3位）関根倫也
成田幸久

赤川ドラマが、キャンパスを舞台にロケーション



赤川次郎原作のベストセラー「三毛猫ホームズ」シリーズの第一作が、大林宣彦監督によってドラマ化され、さる五月、本学園もロケーションの舞台となりました。これは、函館のどこかエキゾチックで沈んだ雰囲気と叙情的な風景が、この物語のイメージにふさわしいということから選ばれたもの。物語の展開を函館の街に置きかえて映像化されたものです。ストーリーの軸が、女子短期大学を舞台に殺人事件が連続するというものです。重要な場面として短大や本学が選ばれ、五月中旬頃から撮影が始まりました。撮影セットが短大内に作られ、本学の講義シーンが撮影されるなど、キャンパスはいつもとはまた違った活気を見せたのです。

出演は、陣内孝則、葉月里緒奈等の有名タレント多数。ビッグ・タレントの登場とあって、学生を対象にしたエキストラの募集にも人気が集まり、多くの学生が応募しました。撮影当日は、緊張の中にも映画に一票でも出演できる喜びや楽しさを隠しきれない学生諸君で、学園内は大いににぎわいました。作品は、テレビ朝日系列で十月二十三日に放映されたのはじめ、映画館上映も行われる予定になっています。



函館食べ歩き

フランス懐石料理
〈レストラン北風屋〉
オーナー 杉下さん



●教務課 稲村早苗さん
宝来町の高田屋嘉兵衛像の横、箸で食べられるフランス料理で名高い人気店です。街並みに美しく調和した和つくりの店舗も魅力。座敷も三部屋あります。店名は、嘉兵衛を描いた馬場太右衛門の名言「菜の花の沖」から。「道南の旬の素材を活かして、落ちついた雰囲気です。前菜やメインは各コース数種類用意していますから、お好きなものを選んでいただけます」と杉下オーナー。ワインの在庫も豊富で、つねにベストのワインを提案してもらえます。昼の部は2500円、夜の部は3500円から。

函館市宝来町7-19
TEL 0138-27-3219
11:00~14:00、17:00~10:00
毎週火曜日定休

ロシアレストラン
〈カチューシャ〉
オーナー 吉田さん



●ハンドボール部マネージャー
吉田弥生さん
函館は古くからロシアとのゆかりが深いまちです。そして、函館で唯一の本格的ロシア料理の店がここ。ピロシキ、ボルシチ、ガルシヨーチキなど、本場のロシア料理がくつろいだ雰囲気を楽しめます。ランチは千円から。夜のコースは二千五百円から。「ロシア料理は元来かざらない素朴なものです。うちではその分、添加物の入った素材を使わないなどして、本物の味にこだわっています。味つけも、日本人向けにヘルシーで軽めにアレンジしています」と吉田オーナー。なんだかときどき無性に食べたくなる味、と言えそうです。

函館市梁川町12-13
TEL 0138-54-3751
11:00~22:00 (15:00~17:00除く)
毎週月曜日定休

The Money



住友信託銀行株式会社元専務
◆客員教授 関野洋一

低金利時代にあえて認識したい金利の力

金利とは、言うまでもなく受け取る方に回れば素晴らしいものですが、払う方になるとたいへんつらいものです。どちらの場合も、わずかながら長い時間をかけて大きなものになっていくということを、改めて肝に銘じておく必要があるでしょう。

例えば二十二歳で入社して六十歳まで一日五〇〇円ずつ五％の半年複利で積み立てたとしても、こんなタバコ代程度のもので、三十八年間も続けられいくらにならぬと思いませんか？なんと、およそ四千万円にもなるのです。一般の上場企業でもらう生涯賃金が約三億円。手取りで二億二千万円くらいです。そして退職金がおおよそ一八〇〇万円くらいでしょうか。上場企業を勤め上げた退職金よりも、タバコ賃を毎日積み立てた方が倍以上も大きいのですから、驚かれることでしょう。低金利の時代ですが、この基本的な考え

方は絶対にゆるぎません。大きなお金を早く抱きたいと思うばかりに、素人が高度な知識や技術が必要な財テクに、リスクを無視して挑戦することは厳に慎むべきですから。

どうしてお金が増えないのか

貯めた人と貯められなかった人の差は、どこにあるのでしょうか？私はよく言います。それは、最初の一〇〇万円にあった、と。お金を貯め始めるとやがてぶつかる最初の壁が一〇〇万円なのです。五〇万円や六〇万円だと、何かの機会に使ってしまうことにそれほどの抵抗はありません。しかしこれが一〇〇万円だと、崩すのには相当の勇気が必要とは思いませんか！貯めたければ、とにかく最初の一〇〇万円を貯める揺るがない決意を持って、ということ。その土台があれば、あとはグングンと増やせます。それを無理なく実現するには、毎月の給料から天引き積み立てするのが一番長続きしますし、意志の強い人にもむいている方法です。

皆さん誤解があると思うのですが、実はお金とは、使うためだけにあってるのではないのです。自分がなにがしかの預金を持っていないと、この安心感がとても重要です。特に老境にさしかかってくるとその思いはひとしおですね。その意味でも、リスクを賭けるのではなく、十年単位で考えるマネープランを立てるべきでしょう。

〈エッセイ〉 「七夕とハロウィーン」

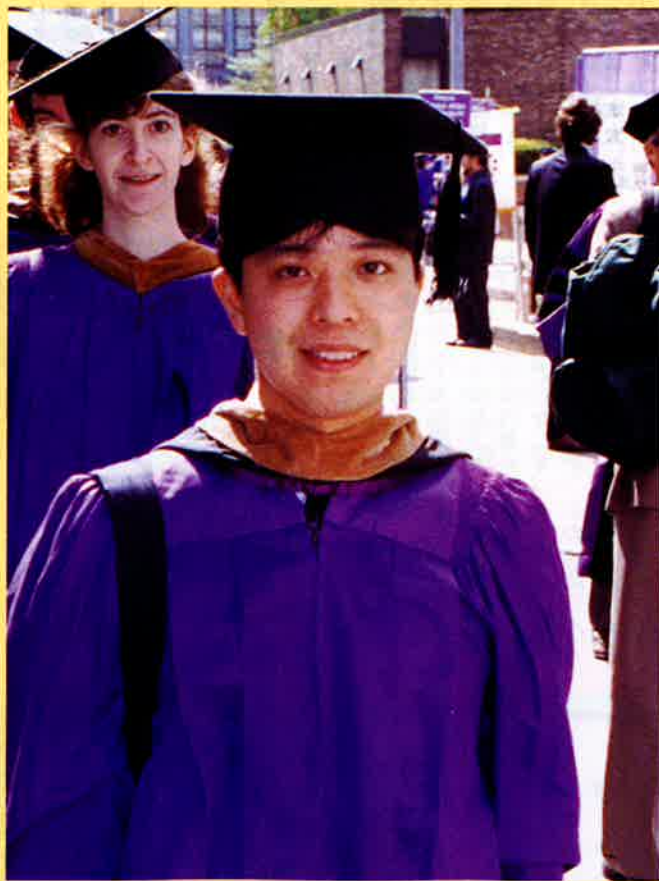
専任講師 世良耕一

私は、一九九〇年の九月から一九九二年の五月まで、ニューヨーク大学のMBAコースで、マーケティングを学びました。その後、大和銀行の東京本部で二年働いた後、函館大学に奉職するため、函館に移り住みました。そして、函館にもアメリカと似た習慣があるのを見出し、驚きました。函館の七夕の習慣が、アメリカのハロウィーンの習慣にそっくりだったのです。共に、子供が特別な装いをし、家を一件一件まわり、お菓子を集めるという点が共通しているのです。ここでは、それぞれの習慣の体験談を、述べていきたいと思います。

ニューヨークでのハロウィーンの場合、一年目は学生寮に住んでいたため、子供たちの来訪はありませんでした。二年目は学生に加え、大学関係者の住んでいる所へ移っていましたので、変装した子供たちが訪ねて来ました。しかし、私はその日がハロウィーンであることが念頭になかったため、私よりも背の高いアメリカの子供たちが、変装して玄関の前に立っているのを見て、物騒なニューヨークでしたので、変質者が来たのと勘違いし、ドアを開けませんでした。後から、子供たちの変装だと気づいたのですが、服部君射殺事件も、同様な勘違いに起因していました。アメリカの治安の悪化とともに、ハロウィーンという伝統が失われつつあることを願っています。

一方、函館での七夕の場合、最初の年は函館の七夕の習慣を知らなかったため、浴衣を着た子供たちが来たときに、お菓子の準備をしていなかったため、非常に申し訳なく思い、秘かに、「来年こそは、お菓子を

渡してやるぞ」と誓いました。二年目は、数日前からお菓子の準備をして待ち受けていたのですが、当日は仕事で帰りが遅くなり、渡すことが出来ませんでした。そして、今年、ついに子供たちにお菓子を配ることができ、ニューヨークで出された宿題を、函館でようやく解くことができたといった気がしました。来年も、「竹に短冊七夕祭り、おいに祝おう、ろうそく一本ちょうだい」という子供たちの歌声が聞こえたときに、堂々とドアを開けられるよう、お菓子の準備は怠らないようにしようと思っています。



〈健康相談室〉

HEALTH



◆江口眼科病院院長
函館眼科医会会長
江口甲一郎

パソコンで、あなたの目は酷使されています

世界的に見て、日本は近視の多い国です。お隣の中国や韓国や台湾もそうです。なぜだかわかりますか？実は漢字のせいだと言われています。画数の多い文字を毎日毎日見続けることが、それだけ眼に負担をかけるのです。ワープロやパソコンがずいぶん普及してきました。ですから作業中ずっと見続けるモニターは、目の位置より必ず下で置いてください。目よりも上にあると、無意識のうちに人間は目を大きく開けてしまうのです。その結果、まばたきが減って目が乾いてしまいます。これは、目にとってとても大きな負担です。また、光が乱反射している場所や、暗い中にぼつんとモニターがある状態もよくありません。瞳の絞りの調節に無理が生じてしまいます。

目が送るサインに注意してください

寝不足や二日酔いの朝など、目が充血しますね。見た目には困ったことですが、医学的にはまったく正常なことです。病気でありません。逆にそういうときそうした反応が出ない方がおかしいと言えます。わかりやすく単純化すれば、そんなときは、カラダが目にくさん栄養を血液にのせて送って、疲れた目の回復に必死で当たっているのです。ですから、赤い目がイヤだといって血管を収縮させる目薬ですぐ充血を取ってしまうのは、感心しません。そういう目的の目薬が市販されているのは事実ですが、毎日使うのは避けた方がよいでしょう。カラダは、栄養を巡らせて目の疲れを取ろうとしているのに、それを一方的にストップさせてしまうのですから。また、しよっちゅう使う目薬は、防腐剤の入っていないものを選んでください。

さらに、理想を言えば、五十分作業したら十五分くらい休むのが良いのです。この場合、できるだけ遠くを見るようにしてください。注意していただきたのは、目をつむったり眠ることは目の休憩にはならないということ。できるだけ遠くを見て、目の緊張を解くことが大切なのです。スポーツも遠くを見ますから、眼にとって大変よいことです。

「函館の歴史・自然」

教授 ●佐久間政弘

函館は、1854年ペリーの黒船の来航・1859年の開港以来、数々の西欧文化を吸収してきた。従って、日本最初という名誉を担った異文化との共存が信じられないほど多い。

西洋型帆船箱館丸、洋式築造の五稜郭、箱館英学、パンと西洋料理、ロシア語入門書出版、貿易船亀田丸、ギリシャ正教発祥のハリストス正教会、函館気候測量所、高炉用の耐火レンガ、日本人設計の元町配水所、女子初のトラピスチヌ修道院、現存唯一の中華会館、アメリカ様式の公会堂、鉄筋コンクリート造りの東本願寺等々。これらが函館をエキゾチックな個性豊かな街としている。

その街並みを包む自然の美しさも類がない。夜には無数のイルミネーションの扇形の街は、二つの海に抱かれて浮かぶ銀河となり、ナポリ、香港と並ぶ世界三大夜景と称される。私はナポリを二度訪れたが、函館の方が美しい。英語の諺“See Naples and die.”「ナポリを見てから死ぬ。」はNaplesをHakodateとすべきだ。また、函館山の反対側、東山や桔梗

の山手からの裏夜景もお薦めしたい。自然と光との見事なハーモニーが心に迫る。



「函館の歴史・自然」

3年 阿部周平

夜景で名高い函館山、その南端にある名勝立待岬からの帰り道、一方通行の下り道を下りきる直前、山側へ入る小径がある。その木立に囲まれた小径を少し分け進むと急に周りが開ける。そこにはその場に不釣り合いなほど立派な石碑を見ることができる。

1869年5月、戊辰の役最後の戦いとなった箱館戦争の時、後難を恐れ顧み見る者一人いない幕府軍戦死者を、自ら収容しこの場に埋葬したのが当時の侠客・柳川熊吉という人であった。新政府のスタ

ートも一段落した1875年5月七回忌を迎えたのを機に、熊吉の心情に共鳴し、当時の陸軍奉行を務めていた大鳥圭介らが、伊豆産の石を使い東京で作らせ、海路はるばる運搬させたものだそうで、総工費3,660円。当時の金額としては大変なものであったろう。

碑の題字「碧血」は「碧血とは、義に倒れた志士の血は三年経つと碧に変わる」と言う中国の故事からとられたものだそうだ。

倒した者、倒された者どちらが是で非だったのか……。何れにしても自らの志に命を賭し、血を流した人々を思い、処刑を覚悟で行動を起こした柳川熊吉を偲びながら、近代日本幕開けの舞台となった町、函館の数多い「歴史とロマン」を探り、散策をするのも楽しいものである。



(株)テオー小笠原

一九五〇年に木材の専門商社ならびに衣料品の販売店として創業以来、今日では、木材、流通、住宅、保険の各事業を柱に八社の関連企業を数える、北海道を代表する企業グループです。

木材事業部は、原木の国内外調達から各種木製品の生産・販売まで、木に関する全てを扱う専門商社として、全国のユーザから厚い信頼を得ており、中でもフローリング（天然木床板）は全国一のシェアを誇っています。近年は北海道特産のシナ合板の販路を全国に広げているほか、良質な北米産広葉樹の原木と製材の輸入を、現地法人の設立によって実現させました。

流通事業部は、テオーデパートを柱として、家具店、DIYショップ、スーパーマーケットなどを札幌から青森にまで展開し、地域に密着した個性的な生活提案を行っています。住宅事業部では、木のスペシャリストとして、住まう方の夢をかなえる高品質の注文住宅の設計・施工に当たって



国際的スケールで事業拡大を進める、北海道を代表する総合企業体



◆代表取締役会長 小笠原金悦

本社／函館市港町3丁目18-15
TEL 0138-45-3911

現在函館で大きな話題となっているのが、新しい夕刊紙の誕生。これはテオー小笠原の小笠原会長と十勝毎日新聞社が設立した夕刊函館新聞社が来春からの発行を予定しているもので、発行エリアは函館市と上磯、七飯、大野の各町。発行部数は五万部を予定。「函館にはこれまで地元紙がありませんでした。函館のきめ細かなニュースを掲載した新聞を作ることには、経済界の長年の希望でもあったのです。私としては、これまで事業を続けさせてくれた地元に対する恩返し、気持ちもあり、はりきっています」と小笠原会長。

「さらに当社は、西暦二〇〇〇年に創業五十周年を迎えます。その時をめぐって、いま最も大きな目標にしているのが、売上高一千億円の達成です。そのころ、函館新聞も順調に地域の皆さまに愛されているといいのですが」。

います。また、長年培ったインテリアのノウハウを活かしたマンション「シャトームシリーズ」の販売や、大規模なタウン開発も積極的に進めています。さらに、興亜火災海上保険㈱の代理店として、北海道内トップの実績を重ねているのが、保険部です。

函館に新・夕刊紙誕生

自主運営のチームワークがモットー

ラグビー部

部員数二十五名。
北海道一リーグの座にある少数精鋭の部です。トレーニングから先発メンバーの決定まで、運営はすべて自分たちの手でしています。「フォワードががんばって、バックスでかき回す、というのが僕たちの攻撃パターンです。のびのび楽しくやるのがモットーですが、もちろんスポーツはまず勝たなければ楽しくありません。だから、勝つことにはあきらめず、なにもなく貪欲だと思えます」と永瀬キヤブテン。練習は、日曜日を除いて毎日二時間くらい。雨の日は体育館で筋力トレーニングや走り込みを行います。メンバーの中には、入学してからラグビーを始める人もいます。「もう少しメンバーがほしいんです。練習でちゃんとしたゲームができるくらいは。大学から始めた人でもレギュラーになれますから、どんどん来て見てください。いっしょにラグビー、やりましょう。ラグビーは、ほんとに深く面白いです。練習にも熱が入ります」。



キャプテン 永瀬 豊君

目標はつねに全国大会

剣道部

三年連続で個人戦の全道チャンピオンを出している三十六名の剣士集団。その強さの秘密は、部員一人一人の資質や努力にプラスして、つねに研究を怠らない練習方法と、日曜日を除いて毎日重ねる豊富な練習量にあるようです。「宮崎先生のもと、



主務 鈴木信吾君



歴史に興味のある学生が、世界・日本を問わずにいっしょに研究してみようという集まりです。部員は十三名。「高校までは歴史という暗記科目というイメージしかありませんでした。でも、違うと思います。歴史を作るのはまず人間だから、そこにあることは、人間の精神を調べることであると思います」と小林部長。日ごろの研究の成果を発表するのは学園祭です。去年のテーマは「戦後五十年」。今年は、「奥州藤原氏」。幕末の箱館戦争に代表されるように、函館は北海道では歴史の匂いが最も濃いマチです。函館空港遺跡は、青森県の三内丸山遺跡と呼ぶ超弩級の縄文遺跡です。市内には、市内外には中世の遺跡や遺構も数多く残されています。また、西部地区には文明開化の息吹を伝える建築物が現役として使われています。古代から近代まで、歴史を学ぶのに不足はありません。「顧問の坂田先生という大ブレンもいらつしやいますし、みんなで楽しく歴史を遊んでいます」。



部長 小林裕人君

歴史の宝庫、函館を学んで遊ぶ

史学研究会

時代を動かしてきた力を探究したい

比較思想同好会



加藤雅君・佐藤直之君

「思想とか哲学といっても、むずかしく考えることはないので、僕たちが毎日生活していく中でぶつかっているいろいろな疑問を、ひとつひとつ深く広く整理して考えていくことが、哲学に繋がっていくのだと思います」と加藤さん。「時代を作っていく出来事があり、人がいると思います。例えばフランス革命での人権宣言や、人々言えば、例えば初期のアメリカの公民権運動をリードしたローザ・パークス女史のように。そうした人々のことを調べて考えていくわけです」と佐藤さん。

Club 熱中してます! キャンパスライフ。



三年連続で個人戦の全道チャンピオンを出している三十六名の剣士集団。その強さの秘密は、部員一人一人の資質や努力にプラスして、つねに研究を怠らない練習方法と、日曜日を除いて毎日重ねる豊富な練習量にあるようです。「宮崎先生のもと、



比較思想同好会は、メンバー十五名がそれぞれ興味をもった社会の出来事や潮流を自由に研究し合っており、学園祭などで展示発表する同好会。知的好奇心の旺盛なメンバーたちは、週に一度集まっては、自分の研究の進み具合を確認し、さまざまなテーマで意見を交換し合っています。哲学のない時代、などと言われた昨今ですが、時間と知的吸収力に最もめざまれた大学時代をフルに使用して、時代認識と自分の内面を深めていくというとしているメンバーたちです」。



「イヤならやめろ」 松 喜美夫



「心にしみるいい話」 鮫川松五郎



「ものの見方、考え方、表し方」 遠藤啓暁



「犠牲 わが息子脳死の11日」 小本真由美

読んだ・感じた・考えた。〈読書テーブル〉

スポーツのチーム作りと会社の経営はどこが共通点が多い。また目的を達した人は経験主義者が多いから説得力もある。

本書は産業用分析計の専門メーカーとして発展してきた堀場製作所を設立した、堀場雅夫氏の創業から五十年間を通して仕事の中で起こった事件、失敗の歴史、感激や失意の中から残したいものと堀場語録をベースにした、堀場氏の経営哲学、人生哲学書である。

本書に、マーケティングにおいて、理想条件というのはなかなか実現できないわけですから、理想条件で一位になると計算していても、条件がそろわずに、二位か三位になれたらいい方です。まして初めから二位か三位かと思っていれば、絶対五位か六位になつてしまいます。だから常に一位になることを目指して徹底的にマーケティング活動と開発を行って行く必要があります。とある。

私もチームを指導して常に考えることは、北海道の優勝だけ目指しているようでは全国では一回戦で終わってしまう。常にベスト4、ベスト8を目指すなければ北海道での優勝もない。

堀場氏の目標は「世界一」だけである、私の人生の参考書になりうる一冊であった。



「イヤならやめろ」 社員と会社の新しい関係 堀場雅夫著 (日本経済新聞社)



「心にしみるいい話」第2集 北海道新聞社編 (北海道新聞社)



「ものの見方、考え方、表し方」 飛岡健著 現代人間科学研究所所長 (実務教育出版)



「犠牲 サクリファイス わが息子脳死の11日」 柳田邦男著 (文藝春秋)

最近本屋で「心にしみるいい話」が目に入り買って読みました。この本は北海道新聞社が一般の人から募集し、道内外から六百二十編もの応募があり、その中から六十三編が収録された本です。

この本(第二集)の内容は、
一、豊かな人びと 十四編
二、夫婦、親と子 十二編
三、人と人のきずな 十一編
四、愛のひろがり 十三編
五、やすらぎの風景 十三編

どれも読む人の心をつくすばらしい作品ばかりです。私も読むうちにいつしか胸が熱くなるほどの感動をおぼえました。

いま、物の価値が中心になって心があつて人に、そうしたゆがんだ社会の中で人とかかわりが崩れつつあると危惧されておりますが、この本を読み終わって、私たちの周辺にはまだまだすばらしい心を持ちつづけている人びとがいることを実感し、心強く思った次第です。

人間という生き物は、ある面で、どんな人をとってもほとんど違いがないとも言えるし、逆に同じ人間でありながらこれほどまで違うのかと思うこともある。朝、起きて顔を洗い、食事をして、歯を磨き、そして着替えをしてそれぞれの場に出かける。若い時代には学校にいき、卒業し、就職し、そして年を取って晩年を過ごし死んでいく。若干の順序の違いはあつたり、少々違う内容が入つても、それほど基本的パターンに変わりはない。会社へ行つても、夜、家に帰つても、それほど大きな違いはないと言えるだろう。やはり、日に二、三回食事をし、寝て、人生何十年かをすごしているのである。

だからこそ人生において、人間にとってわずかの日々の生活の違いや、考え方の違いが大きな意味をもつてくるのである。わずかな頭の使い方の違いによって、人間の一生は大きく変わってしまうものである。そのわずかの持つ意味と価値を知り、それを大切に、日々実行するかどうか、より豊かな人生を送れるようになるかどうかを決定してしまおうのである。この本は、そうしたわずかな頭の使い方の違いを取り上げている。この本を通読することによってさまざまな考え方を身に付け、楽しい人生を形成できるような一冊の本である。

本書は文藝春秋に平成六年四月号と五月号に掲載された手記を大幅に加筆し、翌年四月号で書かれた脳死、臓器移植論を加えて出版された。ノンフィクション作家である著者の二十五才の次男が自殺で脳死に陥り亡くなった十一日間を記した追悼記である。

著者は社会で役に立たないことを悩みとしていた息子の生きた証を示すために、臓器移植を決意するのであるが、そこへ至るまでの経緯が、父親としての感情と医学関係の取材で得たことを交えながら綴られている。圧倒されるのは、社会的にも著名人である著者が、本来なら隠したくなる家庭が半ば崩壊していることも記している点である。

本書の中では、医師や看護婦の誠意な接し方、臨終の際には担当医師が骨髄バンクの登録を決意するなど心動かされるエピソードがある。また、生前の次男の洋二郎氏の日記や文章などが随所にあげられているのが興味深い。

自殺、脳死、臓器移植など、ともすれば重くならがちな事実であるが、読後感は爽快感さえ感じられ、胸を打つ一冊である。

公開講座便り

「地域に開かれた大学」を志向する本学では、関係機関や学園各校のご協力を受けながら、さまざまな公開講座を開催しています。今年度開催された六講座をご紹介します。



公開講座委員長・助教 西村 淳

去る七月六日に、本学専任講師の坂野学先生によって、「中国 文化帝国とその諸問題」というテーマで講演が行われました。中国の様々な事象の裏側には、どういうことがあるのかを、おもしろおかしく聞かせていただきました。

中国の古代から現代までを、しかも関連諸国との関係にも触れ、また、時には最新の学説も交えてというように、二時間という制約された時間の中に多くの話題が凝縮されており、まさに話題の中華料理状態でありました。

今年度は、さらに以下のような講座が開かれております。

平成八年度函館大学公開講座

- 教養語学「やさしい英会話講座」
(八月二十八日～三十日)
ブライアン専任講師、山田専任講師
- 教養専門「はじめてのパソコン講座(表計算)」
(九月二十四日～二十五日)
若松助教、世良専任講師
- 教養文化講演会
(十月二十日) 森毅京都大学名誉教授
- 教養文化「はじめての手話」
(十一月八日) 函館市中央福祉事務所
障害福祉課障害福祉係 鈴木三千恵他
- 教養専門「はじめてのワープロ講座」
(十一月二十六日～二十七日) 高橋助教
- 教養文化「古典芸能の楽しみ方」
(十二月七日) 林家さん平、林家錦平



教養文化講演会



はじめてのパソコン講座

野又学園プロフィール

函館短期大学付設 調理師専門学校

実績と伝統で人気の、調理師科

一九六八年の創立以来、道内外に多くの卒業生をプロフェッショナルとして送り出してきた、道南を代表する調理師専門学校です。調理師科と製菓衛生師科の二科からなり、それぞれに実力ある教員と先進の施設を使って、明日の料理界を背負って立つ人材の育成に努めています。「本学は、野又学園の学園訓、「報恩感謝」、「常識涵養」、「実践修行」に則り、生涯教育の場として、二十一世紀をリードする知識と技術を持った人間間的にも有能な人材の育成を目指しています」と近江校長。



重ね、現在、権威あるオーギュストエスコフィエ協会正会員です。「学生たちには、目の前にこんな素晴らしいお手本があるのですから、吉田先生の持っているものをどんどん吸収してほしいですね」。

高校生卒業生を入学対象とする昼間部と夜間部が設けられています。どちらも就業年限中に二二〇時間の授業を修得すると国家試験が免除され、卒業と同時に調理師免許を手に入れることができます。またこの夜間部は、函館短期大学の学生がダブルスクールとして通うこともでき、短大で栄養士の免許を取り、同時に本校で調理師免許を取ることができる、ユニークで合理的な学びの機会を提供しているとして、高く評価されています。

関東以北で唯一の製菓衛生師科

製菓技術者に対する社会的ニーズに応えて一九八九年に開設された製菓衛生師科は、東北以北では唯一の養成機関です。和菓子、



調理技術研究室長 吉田 徹

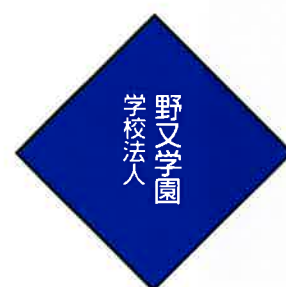
洋菓子ともに理論と技術について幅広く学ぶことができ、徹底して指導される基礎の上に、より高度で華麗な製菓技術を身につけることができます。また、健康への志向が高まっている時代背景を受けて、カロリーや上質な生鮮素材などにも十分配慮した、これからの製菓を見据えています。二二〇〇時間の授業を修得すると、製菓衛生師の国家試験受験資格を得ることができます。意欲がありながらも通学が困難な人のためには、通信課程が開設されています。

また、調理師科、製菓衛生師科ともに、技術や理論に対する教養の裾野を広げるために、食器の意味や魅力を学ぶ陶芸、色彩や造形のセンスを磨くデッサン、ヨーロッパの食文化の基礎となるフランス語の専門授業も設けられています。

さらに、卒業制作は、毎年市民の方を五〇〇名以上招いて行われ、学生一人一人が学んだことの全てを込めた作品を試食していただきます。これは「グルメビック函館」として、地域にとけ込んだ恒例の行事となっています。

函館市柏木町7-25
TEL.0138-53-5572

野又学園組織図



七月の同窓会総会も大盛況。 OBの結束は、年毎に揺るぎないものとなっています。

●同窓会会長 高橋勝美（第一回卒業）
西川関東支部長のご冥福を祈る



始めに誌面を借りて残念極まりないご報告をしなければなりません。昭和六十三年の本会関東支部設立に尽力し、以後支部長の重責を果たされてきた西川明さんが、本年一月十九日、病に倒れお亡くなりになりました。西川さんは、私と同じく一回生でありましたが、在学中から才気にあふれ、また人をまとめる魅力に秀でた行動力の人でありました。西川支部長と近藤幹事長のもとで関東支部は、設立以来順調に民主的な活動を重ね、首都圏に函大OBあり、を大いにアピールして来られました。また西川さんは、個人としては横浜で税理士事務所を開き、たくさんの顧客の信頼も厚い、優秀な税理士として多忙な日々を送っておられました。昨年の六月の総会に来函され、いつものような元気な笑顔を見たのが最後となってしまいました。会員各位を代表して、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

本会は、理事長先生、学長先生の支援をいただきながら、また、各地で毎年開かれる協会の活動を核としながら、昭和六十三年に札幌支部と関東支部（東京）、平成四年に道北支部（旭川）を開設することができ、卒業生の輪は全国に広がるようになっております。次の計画としては、一四〇名ほどのOBを数える青森に支部を設けたいと考えております。

毎年夏は、本部ならびに各支部で懇談会が開かれ、大学をきづなとして旧交と新しいつき合いが深まる季節です。本年も、七月十七日に札幌、旭川、東京、そして七月二十日に函館で総会が開かれ、いずれもたいへんな盛況をおさめることが出来ました。本会はまだ二十七年の歴史ですが、OB達は今まさに社会の第一線に立つ幹部や中堅となり、各界での今後の活躍が大いに楽しみな時期となっております。その勢いを持って同窓会も、本部、各支部が連携を取りながら、一層の充実を図ってまいりたいと考えております。今後とも皆様のご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。



投稿コーナー 百葉箱

「函館大学に学ぶ我が子を思い」

小西廣昭
（山梨県）
3年 小西勝博

函館市とは何か不思議な縁があり、感慨深い感じがいたします。

思い起こすと、今から二十六年前の私の新婚旅行で北海道に行った折り、一番最初に訪れたのが函館でした。

当時は青函トンネルもまだ開通しておらず、青森港から早朝の連絡船で渡る船旅で旅情がありました。

若かりし頃、函館山から見た扇形の市街地、トラピスト寺院、その他観光名所と非常に印象深く今でも脳裏に焼き付いています。

時は流れ、次男が函館大学に晴れて入学しお世話になるようになったのも、何かの縁かとしみじみしたのを感じます。

大学生活も三年目に入り、学園生活にも地域生活にも慣れ、友人もたくさん出来て、おおいに学生生活を謳歌しているものと推察いたしております。親の目から見れば、大学は地元（山梨）の大学を選択してくれば経済的に見て一番ベターな訳ですが、本人の強い希望とあわせ、前述のご縁もあったかと思えます。末っ子で甘えん坊の息子が、一人立ちしアパート生活で炊事、洗濯、掃除等（我が家で一切しなかった）している様子を思い浮かべると、笑いが込み上げてくると同時に、やっぱり思い切った遠方に出して良かったかなと感じる次第です。

さて、先日函館大学協学会主催の東京地区懇談会に出席させていただきました。

三年目にして初めての出席で、状況も想像がつかず不安な気持ちで出席いたしました。懇談会会場に一步足を踏み入れた時正直びっくりしたことは、予想外に多い（一〇〇名以上）父母の方の出席と、大学関係者、協学会からのそうそうたる顔ぶれでありました。大学からご足労頂いた河村学長をはじめ、教授、教職員、協学会役員の方々の気さくな雰囲気を受けることが出来、大学の現況、子供達の生活状況等間近で聞くことができ安心した次第です。

懇談会の後の懇親会、個人面談では、準備していただいた御馳走をいただきながら楽しく懇

親を深めることが出来、かつ子供の概況もお聞きすることが出来て、参加させていただき本当に良かったと感じた次第です。準備の為に、大学関係者の労はいかばかりであったかと思いますが、この様な機会を設定していただいた事に感謝を申し上げます。

なお本原稿はその折りに赤松助教授から依頼された訳ですが、助教授のお人柄と、アルコールの勢いで気楽に請負い、いざ原稿を書こうとすると日頃の筆不精と文才のなさを痛感し、実は後で後悔した次第です。

我が家も三年前に長男が大学を卒業し、入れ替わりに次男が入学と延々約七年間にわたり仕送りが続いている。いざこの家庭も、大変な思いをしながら大学に行かせているかと思うが、子供達には実感として理解されていない感じがします。入学する時に抱いた目的と、希望に満ち溢れた気持ちを忘れずに、マンネリ化せず、大学生活で何か良かったと感じる物を得るよう努力したいものです。

また人生の中でも、大学生活の四年間は一番意義があり、学業、遊び、友人を得る上でも充実した期間だと思えます。初心に返り、残された学生生活を頑張つて欲しいものです。また、第二の故郷函館でおいに青春を謳歌し、一人前に成長して我が家に帰宅する日を楽しみにしています。

末筆ながら函館大学の益々の隆盛と、建学精神に沿って学生諸君の努力を期待いたします。

さようなら学園長先生



創立者と幾多の苦勞を共になされ、本学園の今日を築かれた学校法人野又学園 学園長 野又シン先生病氣療養中のところ、平成八年七月八日午前十一時三十分、肝不全のためついに還らざる人となりました。享年九十一歳でした。関係者の深い悲しみの中、七月十日・七月十一日の両日、しめやかに学園葬が執り行われました。故人の偉業を偲びつつ謹んでご冥福をお祈りいたします。（合掌）